

# 高野原

50th Anniversary

秋さらば今も見るごと妻こいに鹿鳴かむ山ぞ高野原の上

万葉集 卷第一 八四 長皇子

平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念事業実行委員会

2024年3月発行

平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念事業実行委員会

## 目次

記念誌発刊にあたって	……………	P2
○高の原の 50 年を写真で紹介	……………	P3~8
○年表	……………	P9~10
○まちづくりの計画	……………	P11~12
○開発と人口	……………	P13~14
○地区・地域の紹介		
・神功地区	……………	P15~16
・右京地区	……………	P17~18
・朱雀地区	……………	P19~20
・左京地区	……………	P21~22
・佐保台地区	……………	P23~24
・相楽台地域	……………	P25~26
・兜台地域	……………	P27~28
・桜が丘地域	……………	P29~30
○高の原トピック		
・ならやま小中学校の誕生	……………	P31~33
・地域の高等学校とのかかわり	……………	P34
・公園活性化と活用の取組	……………	P35~37
・住環境改善に向けた取組	……………	P38
○高の原の各種団体活動		
・平城西公民館	……………	P39
・平城東公民館	……………	P40
・高の原文化協会	……………	P41~42
・平城ニュータウンスポーツ協会	……………	P43~44
・民生委員児童委員協議会	……………	P45~46
○平城・相楽ニュータウンまちびらき 50 周年記念事業	……………	P47~49

1972年11月25日の平城・相楽ニュータウンまちびらきから50周年を記念して、まちを盛り上げるイベント（記念事業）などを進めるため、地域・事業者・行政が一体となり「平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念事業実行委員会」が結成されました。

本記念誌は、記念事業の一つとして「記念誌編集部会」を設置し作成したものです。また、表紙の【高の原】は「まちの愛称募集事業」の公募から選ばれたまちの愛称で、その書は地元の書家、佐竹有沙子様に書いて頂きました。

## 『記念誌発刊にあたって』

半世紀前、平城山（ならやま）丘陵613haを開発し、計画人口73,000人の新しい街づくりが始まりました。

この事業を担った日本住宅公団の資料には、開発の基本的な考え方について「地区周辺の自然環境、とりわけ歴史的風土景観との調和を図ること、人口規模にふさわしい都市施設を整備することにより、`都市らしさ`を醸成し、多様化する現代の生活を営むにたるニュータウンを建設すること。」と書かれています。出来上がった街をみると、住宅配置、道路・歩行者専用道、公園・緑地、学校等のインフラは住民が快適な生活を送れるよう整備されています。そして、この新しい街に全国から人が集まってきました。

次は、集まった人々がこの街でどのような生活をするかです。人と人との交流が大切です。自治会が結成されてゆきます。社会福祉協議会等も結成されます。また、地域を跨ぐ文化協会、スポーツ協会も結成されました。その他様々な活動が営まれてきました。人口の増減等社会の変化によりそれら団体・施設のありようも変わります。今では、佐保台地区も加えて「高の原」と呼ぶ街になりました。

自らの手で街を創ってこられた先輩諸氏の活動を振り返り、また今の活動を紹介することにより、ここ高の原が今後も一層住民が暮らしやすい街であり続けることを願って50周年記念誌を発刊しました。

ご一読いただければ幸いです。

記念誌編集部会



### 彫刻家佐藤忠良氏とその作品

明治45年(1912)宮城県生まれの佐藤忠良氏は、昭和35年(1960)第3回高村光太郎賞を受賞するなど、現代具象彫刻を代表する彫刻家です。

昭和47年(1972)から始まった「帽子・夏」のシリーズは、簡素に引き締まった姿の中にほとんど風土感を感じさせない作品で、清爽な抒情感を表しています。平城ニュータウン事業完成記念として製作され、ふれあい橋に設置されたブロンズ像「夏」は、平和への願いを込めてつくられました。



### 「高の原駅」駅名の由来

万葉集に「秋さらば 今も見るごと 妻ごひに 鹿鳴かむ山ぞ 高野原の上」(万葉集 巻第一 八四 長皇子)とあることから引用して駅名としたものです。高野原は平城宮跡の北西に広がる松林の丘陵一帯、すなわち今の平城ニュータウンの南部がこの地にあたるといわれ、ニュータウンの核となる新駅にふさわしいとして駅名に採用されました。

高の原駅設置

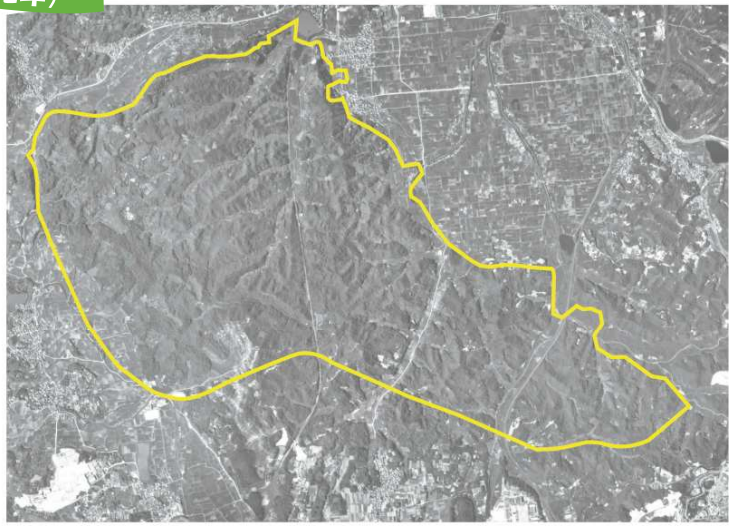
## 高の原の50年を写真で紹介

移りゆく風景～高の原今昔～

1972年11月25日、高の原を中心としたこの地に「平城・相楽ニュータウン」が産声をあげてから50年。この半世紀の間にまちなみもずいぶん変わりました。そんな高の原の50年を懐かしい写真で振り返ってみましょう。現在の写真と比べるとすっかり変わってしまったものや、今も変わらないものが見えてきます。

1967年ごろ  
(昭和42年)

### 高の原周辺の航空写真



写真提供:UR都市機構

2022年ごろ  
(令和4年)



## 近鉄高の原駅開業と仮改札駅

1972年ごろ  
(昭和47年)



写真提供:山本 公弘様

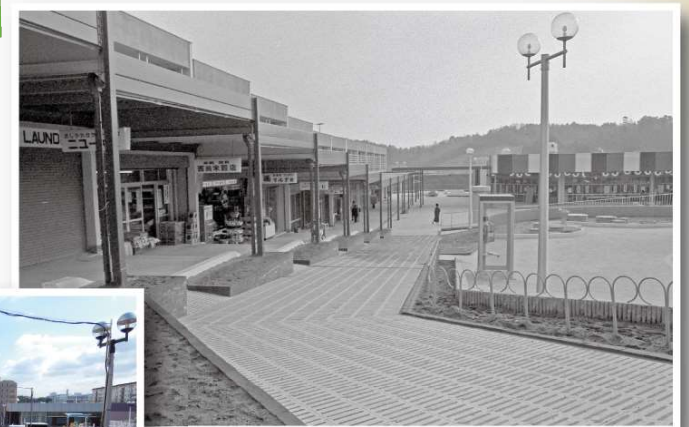
現在の様子



近鉄京都線に「高の原」駅が新設され、仮駅にて開業いたしました。この頃はまだ、現在のような駅舎ではなく、地上の仮改札駅でスタートしました。2023年には駅前広場に「まちの愛称記念碑」が建てられました。

1972年ごろ  
(昭和47年)

## 平城第2ショッピングセンター



写真提供:山本 公弘様

現在の様子



団地入居者の生活利便性の向上を目的として、平城ニュータウン初の商店街として開業しました。現在も、NPO法人、法人事務所、奈良右京郵便局、各店舗からなる商店街として営業されています。

1973年ごろ  
(昭和48年)

### 平城ニュータウン・朱雀エリア方面を望む



写真提供:平城第2団地自治会様

近鉄高の原駅から、平城ニュータウンの朱雀エリア方面を眺めた様子。整備が開始されたばかりでまだ建物もなく、このあたりがなだらかな丘陵地であったことがわかります。

現在の様子



1974年ごろ  
(昭和49年)

### 『蛙の池』がプールに早変わり！



写真提供:平城第2団地自治会様

平城第2ショッピングセンター前広場。当時は、蛙のオブジェが配置された水遊びスペースがありました。現在は、砂場と子供遊具だけが残った広場ですが、壁の「天女」のレリーフが当時の面影を残しています。

現在の様子



### 近鉄高の原駅開業当時の駅前広場周辺

1973年ごろ  
(昭和48年)



写真提供:平城第2団地自治会様

近鉄高の原駅開業当時の駅前広場の様子。駅は開業したものの、周辺はまだまだ整備中で、地域にお住いの皆さんも造成現場を通り抜けて駅に向かっていました。

現在の様子



1975年ごろ  
(昭和50年)

### みんなでラジオ体操！



写真提供:平城第2団地自治会様

平城第2団地夏の恒例行事、ラジオ体操。早朝よりたくさんのお子さんが、元気に広場に集まってラジオ体操を行っていました。

現在の様子



1986年ごろ  
(昭和61年)

### 相楽ニュータウンまちびらき



写真提供: 関西文化学術研究都市センター

相楽ニュータウンのまちびらき当時の様子。写真左側に写る高の原駅西団地から入居が始まりました。現在では両側に集合住宅が立ち並び、写真中央のイオンモール高の原(サントウンプラザこすもす館)を中心に、街ににぎわいと活気があふれています。

現在の様子



### すずらん館前広場の噴水

1991年ごろ  
(平成3年)



写真提供: UR都市機構

1991年ごろのすずらん館前広場の様子。当時は噴水が設置されていました。現在は地域のボランティア会員、法人会員の方で運営する「花いっぱい運動の会」により、四季折々の花が楽しめる花壇となっています。

現在の様子



### 平城ニュータウン事業完成記念式典

1988年ごろ  
(昭和63年)



写真提供: UR都市機構

近鉄高の原駅前広場にあるセンベルセコイヤは、1988年に平城ニュータウン事業完成記念として植樹されました。

現在の様子



### サントウンほっとスクエア

1996年ごろ  
(平成8年)



写真提供: UR都市機構

1994年(平成6年)近鉄高の原駅前(現在のイオンモール高の原)に整備された商業施設。東館と西館からなり、飲食店やコンビニエンスストア、公団賃貸住宅高の原駅前総合案内所など6店舗が入居・開業していました。2004年(平成16年)に全て閉店し、再整備が開始されました。

現在の様子



# 年表

高の原のあゆみ

1970年～2024年にわたる高の原の軌跡を振り返ります

## 1970～1979年 (昭和45年～54年)



サンタウン高の原開業



相楽地区まちびらき記念式典

- 1970. 10 平城土地区画整理事業計画認可
- 1971. 12 奈良市清掃工場完成
- 1972. 11 平城ニュータウンまちびらき
- 〃 平城第2団地入居開始
- 〃 平城第2ショッピングセンター開業
- 〃 平城派出所開設
- 〃 近鉄高の原駅仮駅舎にて開業
- 1972. 12 右京小学校開校
- 〃 平城西中学校開校
- 〃 奈良市北部出張所開設
- 〃 奈良右京郵便局開局
- 1973. 4 平城診療所(現高の原中央病院)開設
- 〃 右京幼稚園(現神功こども園)開園
- 1973. 5 右京保育園(現右京こだま保育園)開園
- 〃 近鉄高の原駅橋上駅完成・本開業
- 1978. 3 相楽土地区画整理事業計画認可
- 1978. 7 平城ニュータウンスポーツ協会発足
- 1979. 4 神功幼稚園(現神功こども園)開園

## (昭和55～64年) 1980～1989年

- 1980. 4 神功小学校(現ならやま小中学校)開校
- 〃 朱雀小学校開校
- 〃 朱雀幼稚園(現朱雀こども園)開園
- 〃 朱雀保育園(現朱雀こども園)開園
- 〃 平城高校開校
- 1980. 9 平城西公民館開館
- 〃 平城第二コート・球技場竣工(朱雀)
- 1981. 11 サンタウン高の原(現サンタウンプラザ  
すずらん館)開業
- 1983. 2 平城ニュータウン文化協会発足
- 1984. 9 奈良市総合福祉センター完成
- 〃 奈良市佐保山コート竣工(佐保台)
- 1985. 4 平城東中学校開校
- 1985. 5 三井佐保山住宅地竣工
- 1985. 12 国鉄(現JR)平城山駅開業
- 1986. 3 相楽ニュータウンまちびらき
- 1986. 4 相楽地区まちびらき記念式典
- 〃 高の原小学校開校
- 〃 木津第二中学校開校
- 〃 南陽高校開校
- 〃 相楽台保育園開園
- 〃 山田荘小学校移転開校

- 1986. 4 平城・相楽地区が文化学術研究地区に  
位置付けられる
- 〃 東大寺学園中・高校移転開校(奈良市山  
陵町)
- 1986. 6 ならやまコミュニティスポーツ会館完成
- 1986. 10 ふれあい橋完成記念式典
- 1987. 3 平城地区換地処分公告
- 〃 相楽中部消防署木津西出張所開署
- 〃 平城第一コート・球技場竣工(左京)
- 1987. 7 木津町西部出張所開設
- 1988. 2 奈良大学移転開校(奈良市山陵町)
- 1988. 4 佐保台小学校開校
- 〃 精華南中学校開校(山田荘小学校内)
- 〃 奈良交通平城営業所開設
- 1988. 5 平城ニュータウン事業完成記念式典
- 佐藤忠良氏作のブロンズ像「夏」除幕
- 1988. 7 奈良市環境清美工場完成
- 1988. 9 精華町立精華南中学校移転開校
- 1988. 10 奈良朱雀郵便局開局
- 1989. 4 神功保育園(現神功こども園)開園
- 〃 高の原幼稚園開園
- 1989. 7 兜台グラウンド・兜谷テニスコート開設



ふれあい橋完成記念式典

## (平成12～21年) 2000～2009年

- 2004. 3 コープ朱雀開店
- 2004. 7 奈良市北部会館開館
- 2004. 11 平城ニュータウン30周年記念事業・  
自治連合会対抗運動会開催
- 2007. 3 旧木津町・加茂町・山城町の3町が  
合併し、木津川市誕生
- 2007. 5 イオン高の原ショッピングセンター  
(現イオンモール高の原)開店
- 〃 木津川市西部出張所イオン高の原へ  
移転開設



平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念式典

## 1990～1999年 (平成2～11年)

- 1990. 4 池谷公園テニスコート開設(桜が丘)
- 1990. 5 平城東公民館開館
- 1990. 9 ハイタッチ・リサーチパーク開所
- 1991. 6 いけたに保育所開所
- 1991. 11 サンタウンひまわり館(現サンタウン  
ラザひまわり館)開業
- 1992. 1 奈良交通高の原案内所開設
- 1992. 4 奈良市中消防署北出張所(現奈良市消防  
局北消防署)開設
- 1993. 3 平城派出所が近鉄高の原駅前派出所(現  
奈良警察署近鉄高の原駅前交番)に移設
- 1993. 4 相楽台小学校開校
- 〃 左京小学校開校
- 〃 左京幼稚園(現左京こども園)開園
- 1993. 10 木津兜台郵便局開局
- 1994. 3 相楽地区換地処分公告
- 1994. 6 ならやま研究パーク開所
- 1995. 2 高の原コミュニティスポーツ会館開館
- 1996. 4 兜台保育園(現愛光兜台こども園)開園
- 〃 木津警察署相楽交番 開設
- 1998. 4 学校法人青丹学園・奈良医療福祉専門学  
校(現関西学研医療福祉学院)開校
- 1999. 1 平城山駅前郵便局開局



イオン高の原ショッピングセンター開店

## 2010～2024年 (平成22～令和6年)

- 2012. 4 佐保台幼稚園と左京幼稚園が統合し、  
認定こども園左京保育園となる
- 2013. 11 サンタウンプラザ ひかり館開業
- 2015. 4 木津さくらの森開園
- 2016. 3 サンタウンプラザ すずらん南館開業
- 2017. 4 神功こども園開園
- 2018. 4 朱雀こども園開園
- 〃 南陽高等学校附属中学校開校
- 〃 関西文化芸術高等学校開校  
(奈良市山陵町)
- 2020. 4 こども園右京こだま保育園開園
- 2022. 4 右京小学校と神功小学校が閉校され、  
平城西中学校の跡地にならやま小中学校  
として開校
- 〃 奈良高等学校移転開校
- 2022. 11 平城・相楽ニュータウンまちびらき  
50周年記念式典

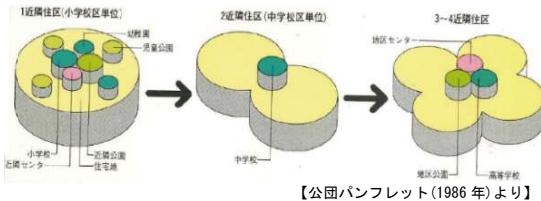
# まちづくりの計画

平城・相楽ニュータウンはUR都市機構(当時の日本住宅公団)が開発した奈良側の平城地区(土地区画整理の事業期間:1970年(昭和45年)10月から1987年(昭和62年)3月、面積:348.7ha)と京都側の相楽地区(土地区画整理事業の事業期間:1978年(昭和53年)3月~1994年(平成6年)3月、面積263.9ha)とで構成されており、1972年11月入居開始。佐保台は1981年(昭和56年)より造成工事が始まり、1985年(昭和60年)より入居開始。ここでは、日本住宅公団による大規模ニュータウンとしては関西での最初の開発となった平城・相楽ニュータウンの計画をまとめます。

## 近隣住区論と歩車分離

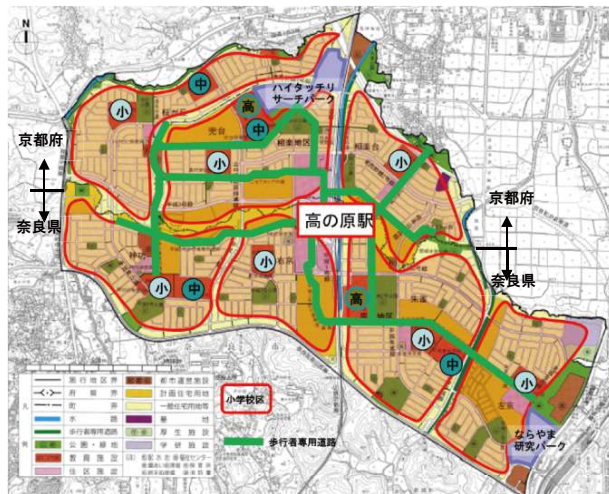
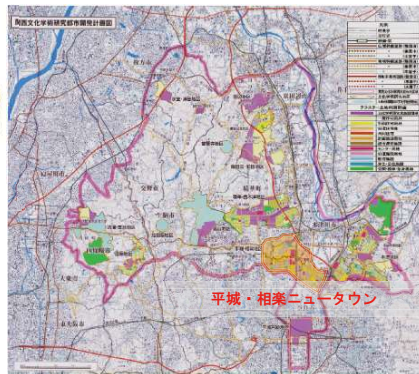
平城・相楽ニュータウンの計画にあたっては、近隣住区論と歩車分離が本格的に導入されました。近隣住区論は、一つの小学校区に小学校と近隣公園、近隣センターを配置し、あわせていくつかの児童公園(現在の街区公園)を配置。二つの小学校区に一つの中学校、4つの小学校区に一つの高校と地区公園、地区センター(高の原駅周辺のセンター)を配置します(下図模式図参照)。

また、自動車を排除した遊歩道(「歩行者専用道路」)が地区全体を網羅的・有機的に配置され、自動車と人の交差が少なくなるよう遊歩道に沿って学校や公園、近隣センターや集合住宅が配置されました(土地利用計画図参照)。



## 関西文化学術研究都市

1987年(昭和62年)に関西文化学術研究都市建設促進法が施行され、平城・相楽ニュータウンもその一翼を担い(右図参照)、相楽地区にはハイタッチリサーチパーク、平城地区にはならやま研究パークが順次開設されました。

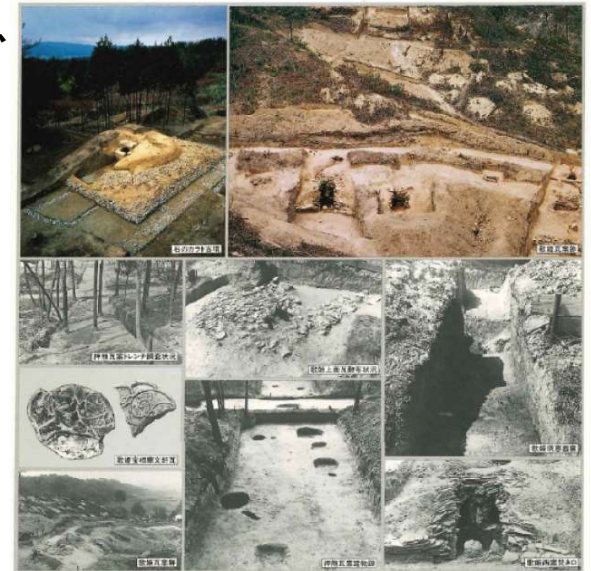


## 文化財の保存や公園・緑地、歩行者専用道路の整備

「平城(なら)に都が置かれた時代“北の青垣”と呼ばれた奈良(なら)山丘陵の一角に豊かな自然環境を活かしながら古代文化と現代的な都市機能とが調和する都市づくり(公団冊子より)」が目指されました。

確認された多くの遺跡については調査や保全がされ、京都府と奈良県の境界は公園・緑地や公団をはじめとした集合住宅のオープンスペースなどが緑としてつながるように「府県界緑地」が整備されました。

また、丘陵地形を生かしながら公園や歩行者専用道路の整備も進みました。



※1968年の都市計画法制定により自動車を通さない道路(歩行者専用道路)の整備が可能となり、奈良市長の要望(上の「市民だより」参照)とがあいまって平城ニュータウンにおける歩行者専用道路が整備された。



# 開発と人口

土地利用計画図

50年の人口・世帯数推移

## 土地利用計画図と現在の人口

現在、高の原にはおおよそ4.2万人、1.9万世帯が暮らしています。  
※令和5年3月末日及び4月1日の住民基本台帳を元に各行政が発表したデータを使用

- 戸建て住宅
- 分譲マンション
- UR賃貸住宅
- 公共施設
- 研究施設
- 公園
- 商業施設
- 福祉施設
- 墓地
- こども園・保育所・幼稚園
- 小学校
- 中学校
- 高校
- その他の学校
- 歩行者専用道路

### 精華町桜が丘

人口：5,316人 世帯数：2,202戸

- 桜が丘一丁目 (人口 1,263人)
- 桜が丘二丁目 (人口 1,057人)
- 桜が丘三丁目 (人口 1,300人)
- 桜が丘三丁目エスベローマ (人口 416人)
- 桜が丘四丁目 (人口 1,280人)

### 奈良市神功

人口：5,083人 世帯数：2,335戸

- 神功一丁目 (人口 1,055人)
- 神功二丁目 (人口 484人)
- 神功三丁目 (人口 754人)
- 神功四丁目 (人口 905人)
- 神功五丁目 (人口 815人)
- 神功六丁目 (人口 1,070人)

### 奈良市右京

人口：4,732人 世帯数：2,429戸

- 右京一丁目 (人口 17人)
- 右京二丁目 (人口 1,993人)
- 右京三丁目 (人口 906人)
- 右京四丁目 (人口 573人)
- 右京五丁目 (人口 1,243人)

### 奈良市朱雀

人口：6,463人 世帯数：2,874戸

- 朱雀一丁目 (人口 994人)
- 朱雀二丁目 (人口 500人)
- 朱雀三丁目 (人口 1,024人)
- 朱雀四丁目 (人口 967人)
- 朱雀五丁目 (人口 2,169人)
- 朱雀六丁目 (人口 809人)

### 奈良市左京

人口：6,001人 世帯数：2,510戸

- 左京一丁目 (人口 1,019人)
- 左京二丁目 (人口 2,096人)
- 左京三丁目 (人口 1,668人)
- 左京四丁目 (人口 587人)
- 左京五丁目 (人口 618人)
- 左京六丁目 (人口 13人)

人口：6,824人 世帯数：3,022戸

- 兜台一丁目 (人口 1,759人)
- 兜台二丁目 (人口 1,201人)
- 兜台三丁目 (人口 701人)
- 兜台四丁目 (人口 543人)
- 兜台五丁目 (人口 1,858人)
- 兜台六丁目 (人口 201人)
- 兜台七丁目 (人口 561人)

### 木津川市相楽台

人口：4,986人 世帯数：2,115戸

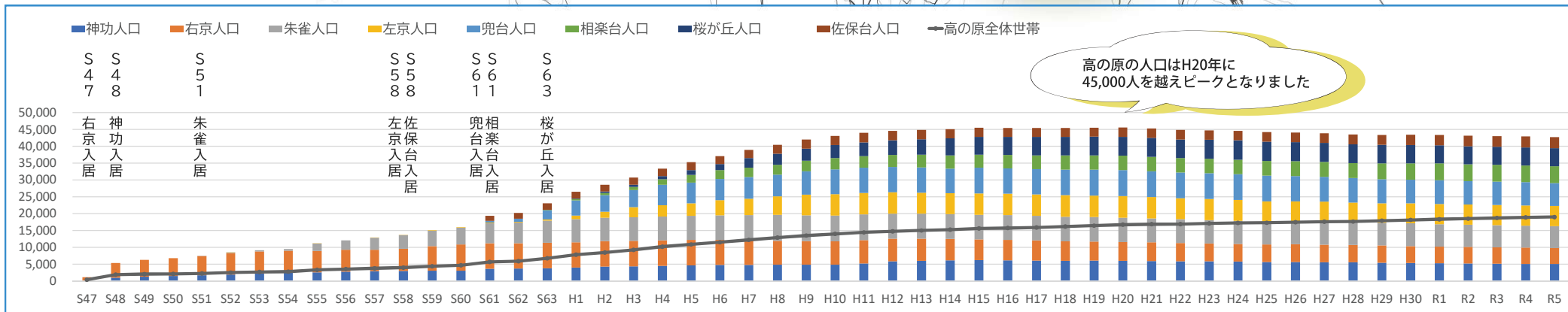
- 相楽台一丁目 (人口 722人)
- 相楽台二丁目 (人口 622人)
- 相楽台三丁目 (人口 15人)
- 相楽台四丁目 (人口 0人)
- 相楽台五丁目 (人口 745人)
- 相楽台六丁目 (人口 467人)
- 相楽台七丁目 (人口 813人)
- 相楽台八丁目 (人口 968人)
- 相楽台九丁目 (人口 634人)

### 奈良市佐保台

人口：3,302人 世帯数：1,523戸

- 佐保台一丁目 (人口 645人)
- 佐保台二丁目 (人口 1,080人)
- 佐保台三丁目 (人口 650人)
- 佐保台西町 (人口 927人)

## 50年の人口・世帯数推移





# 地区・地域の紹介 神功 じんぐう

## 1. 住んでよかった神功、

### これからも住みたい神功！

これは神功地区自治連合会キャッチコピーです。住みよい地域を作るのは行政だけではなく、住民自身が自らの手で積極的に関わる必要があるとの想いを込めています。

## 2. 神功の歴史

神功の歴史を振り返ると、早い段階で平城第1団地が出来、その住民用のバス路線（高の原駅～神功4丁目）が開通しました。また団地近く、現在の「丘の小道商店街」に住民の日々の生活用品を販売する「近商ストア平城2号店」が出来ていました。

戸建て住宅は、高の原駅近くから順次開発が進みました。そして最後の大型開発が神功6丁目の大規模マンションです（1999年）。

このような開発の進展に応じて子どもたちの数が増え、1980年には右京小学校の分割で神功小学校が開校しました。6丁目の大規模マンションができた際には、小学生が急増し教室が足りないために神功小の校舎増築が行われました。

そして、2022年には少子化と建物老朽化等を原因として、神功小学校は、右京小、平城西中と共に「ならやま小中学校」に生まれかわりました。

## 3. 神功地区の行事

### ・神功秋祭

1991年から神功池公園を利用して秋祭りを開催しています。水神さんといわれている祠に神主さんの祝詞をあげていただくことから始まります。

そして舞台（子どもたちのけん玉・中学生の吹奏楽・市役所パサラチーム八重桜・阿波踊りの大仏連等）模擬店、社協主催の健康チェック、そして楽しみ抽選会などを楽しんでいただいています。子どもが多かった時代には、子どもたちが樽神輿を担いで練り歩いていました。

近年来場者が増え1,000名を超え、会場があふれかえるようになっています。

### ・とんど焼き

2003年から旧神功小学校校庭において、とんど焼きをしています。燃やす竹は前日に神功6丁目緑地から切り出します。コロナ禍前までは、住民が栽培された丸大根の提供を受け大きな鍋で煮て皆様にふるまっていました。

### ・神功音楽祭

2009年から北部会館をお借りして、北部会館と共催で神功音楽祭を始めました。初回に「ママさんプラスなら」の大演奏を聴かせていただいたこと、また神功小学校の太鼓倶楽部の力強い太鼓マーチを楽しませてもらったことが印象に残っています。平城西中学校の吹奏楽も演奏者が舞台上に収まらない位の人数だったのですが、今は寂しくなりました。その他、高齢者クラブ、公民館自主活動グループの皆様にも出場いただいています。

### ・神功クイズ大会

テレビでは、視聴者参加のクイズ番組が昔も今も人気を集めています。学生時代にクイズ番組で大活躍された堀家敦さんの全面的支援によって2013年から神功クイズ大会を始めました。問題を作るのは無論堀家さんです。それぞれ問題について正解だけでなく外れも準備する必要があります。約2時間の大会の約1,000の選択肢を考えられているようです。それでも毎年楽しく面倒を見ていただいています。感謝！感謝！

## 4. 神功地区社協の活動

これまで定番の「ふれあいサロン」「子育てサロン」「神功カフェ」等を開催してきましたが近年はより多くの皆様に地区社協の行事に参加していただけるよう新しい取り組みをするようになりました。例えば神功池公園等を利用した「子ども居場所づくり活動」。この活動には社協会員以外に民生児童委員、PTA、地域教育推進会議メンバー、その他ボランティアの方など多数のメンバーが参加されており地域の

人々が子どもたちを支えるいい体制が出来ていると感じています。

その他、カレー食堂、ミニコンサート、ならの歴史にふれる全9回の講演会、落語会。ラジオ体操人形「ブービー」を高齢者にお配りしたこともありました。地区社協が、地域の皆さまに身近な存在になるよう心掛けてゆく所存です。

## 5. 防災防犯活動

### ①防災活動

神功地区は、人口が5千人を超え人と人がつながり、互いに助け合うコミュニティとしては規模が大きすぎるとの考えから、自治会単位で防災訓練や防犯活動がされています。数年前から指定避難所である旧神功小学校を利用した避難所開設訓練を実施しています。地震は何時発生するか分かりません。それに対応するため、出来るだけ事前の準備をしないで訓練をするよう心掛けました。参加者はお客さんではないこと、出来ることは手伝ってもらおうこと、水を持参してもらおうような試みもしました。神功小学校がなくなりましたので、今後は、ならやま小中学校に場所を移して実施することになります。

### ②防犯活動

神功地区内では、2010年頃から各自治会が作成した防犯啓発チラシが掲示版のみならず各家庭の門扉などに張り出されています。これで十分というわけではありませんが一定の効果はあるようです。しかし、事前の下見をするような空き巣にはお手上げです。道を歩く人に挨拶をすることが大変重要であると言われていいます。街をあげてそれを実行したいものです。

## 6. 高齢者団体

神功地区においても以前は万年青年クラブが存在しました。しかし、会員数の減少と高齢化のため継続が非常に困難な状況に陥っていました。そこで、万年青年クラブは活動を休止し、単位自治会の範囲で新たな高齢者団体を立ち上げることになりました。神功さわやかクラブ、結の会、絆の会、いきいきクラブ、いちよんクラブです。会員の居住範囲が狭くなったことに

よりお互いの顔が見えやすくなりそれぞれの会が30～50名の会員で歌声サロン、健康マージャン、ハイキング、飲み会等活発に交流されています。

## 7. 急速な車の普及と駐車場問題

このニュータウンの開発は、日本で急速に個人の車所有が増える歴史と共に進みました。初期にはこれほどまでに車が増えると考えられていませんでした。したがって開発初期に建設された平城第1団地の駐車場が顕著となりました。2005年と2008年地元自治会の要望に基づき合計166台の駐車スペースが新たに開設されることになりました。



# 地区・地域の紹介 右京 うきょう

## 【新たな街づくりに向けて】

### 右京地区自治連合会

右京地区の中心軸であった旧右京小に代わり、平城3号近隣公園が地域の憩いの中心軸となって来た、その公園で「お月見会」が令和5年9月29日（金）に開催された。午後6時、平城3号近隣公園に集まった大勢の人々が御蓋山の頂きに現れた満月を見て一斉にカメラを向けて「来年も中秋の名月の会を開催してね」と大勢の方から励ましの声を頂いた。

右京の人口の38%弱が65歳以上の高齢者と云われるが、楽しいイベントには大勢の若い世代、子ども達も集まって来ます。以前は小学校を軸とした催しやすスポーツ大会が行われましたが、今も面白いイベントを地域ぐるみで行うと年齢に関わらず多くの老若男女が集えて、新しい人との交流の場が出来上がります。

地域に住む人々が互いに交流できる機会を増やして地域内の風通しを良くして行くには地域の公園を利用したイベントの開催が大事ではないかと考えます。「お正月のトンド焼き」、「春の花見会」、「第2団地での夏祭り」、「秋のお月見会」と「地域防災訓練」「年末お餅つき会」等を定着化してその輪を広げて行けるように地域からの協力とアドバイスを頂き促進して行こうと思ひます。

振り返ると、平城・相楽ニュータウン開発の一環として奈良北部の丘陵地が造成され「右京地区」が最初の産声を上げたのが1972年4月。地域内の自治会が1974年4月に立ち上がり「我が街右京」をみんなの力で創り上げ、育て上げて来て半世紀が過ぎました。この半世紀にわたり地域の為に活動して頂いた多くの方々から御礼を申し上げる次第です。

直近の右京の姿は2,454世帯、4,751人。右京地区を愛する人々が希望される事はこれから50年先の「我が街右京」を今以上に住み易く、安心で安全な緑豊かな街にして、新たな世代の人々にも期待されるような地域になる事だと思ひます。

令和7年頃には旧右京小跡を活用した住宅地に新しい入居者が来られる予定です。

新たな住宅街には新たな緑地エリアと大きな広場が

準備されます。地域内で安心して利用できる高齢者施設の開設も地域からの要請を受けて行政側と交渉しています。楽しく・心落ちつくシニアライフを住み慣れた地域内で過ごせることは願っても無い事です。伝統的に「我が街右京」はまとまりの良い所です。地域で活動する諸団体も互いに緊密な連携を取りながらの活動が永年続いています。このグループが生み出してきた右京独自の催しを今後も継続・実施する事で地域内の繋がりや輪を広げて、新しい住民も参加しやすい新しい輪へと広めてゆく事が大事な事だと思ひます。

地域の窓口として自治連合会がその役割を果たせるように運営して行かねばなりません。

新しい右京の街を地域住民からの協力を得ながら築き上げるための活動内容です。

●人々が集い・憩える公園は住宅内の貴重なオープンスペースです。

右京地区の「ピエロ公園」「平城3号近隣公園」「丸太公園」は他にも自慢できる素晴らしい公園です。永年、地域のグリーンサポート団体が環境整備活動を続けている公園です。安心して利用できる公園の環境整備をみんなで心掛けて行きたいです。

●人々が集い、話し合えるスペースとしてふれあい会館に加えて、体育館内のフリースペースも活用できるようにします。地域交流の機会を増やしたいです。

●「高齢化社会」への対策として「地域内の高齢者施設」を右京地区に設置する事で高齢者が安心して暮らせる街として施設運営に期待したいです。

●地域内で多彩な活動をしている活動諸団体との連携を保ちつつ各々の活動団体が自主的に地域内活動を推進する一方で、自治連合会は奈良市行政への窓口として地域からの要望点や改善点を自由に忌憚なく話合いの出来る関係を維持して行きたい。

このような活動が新しい右京の街を築き上げる一助となるよう期待しています。

とは云うものの当面の課題は高齢化社会への対応と新しい世代の勧誘で地区を活性化させること。これら

の活動に取り組み新たな右京へと変化する事を期待したいです。

### なら山万年青年クラブの歩み

なら山万年青年クラブは1978年（昭和53年）7月に設立されました。

当時は平城ニュータウンと言ってもまだ右京地区と神功地区のみで、人口も9千人弱でありました。その様な中での万年青年クラブの組織作りには大変な労力と努力があったであろうことは容易に想像出来ます。そして設立時に52名もの会員を集められたことは驚きです。

これまでの会員の皆様のご努力のお陰で、今日迄「なら山万青」を継続出来ているのは本当に素晴らしい有難い事です。継続は力なりです。現在「なら山万青」は会員70数名で、8つのクラブ（体育・マジック・カラオケ・マージャン・旅行・ハンドベル・詩吟・クラフト）が有り、それぞれが活発に活動しています。そして毎月（8月を除く）第2日曜日に常会を開き食事を楽しみ、アトラクションには他から講師を招いたり自分たちのクラブ（マジック・ハンドベル・詩吟）が出演して常会を盛り上げています。

当会の活動を継続するうえでの問題は高齢化です。（なら山万青会員の平均年齢2023年で83.42歳）今後どのように継続して少しでも若返りが出来るかそして発展させることができるかが大きな課題です。

### 「奈良市平城ニュータウンのあゆみ」を

#### たどりながら――

#### 社会福祉協議会

「平城ニュータウン」に入居ははじまって10年、昭和57（1982）年に「平城ニュータウン地区社会福祉協議会」が発足した。

街の成長にあわせて「地区」は細分割され、「右京地区社会福祉協議会」が誕生した。昭和60（1985）年9月のことである。

平成10（1998）年に「右京地域ふれあい会館」が開設されて活動拠点が整った。小地域ネットワーク活

動、「見守りチーム」の発足は翌平成11年4月。平成12年から「ふれあいサロン」が定例化された。

さらに、「北福祉センター（旧称北老春の家）」が、平成16（2004）年1月に開設された「奈良市北部会館」に置かれて、地区社協の活動はさらに活発となった。奈良市総合福祉センターで行われていた「敬老の集い」は、ここで開催されるようになった。

現在「右京地区社協」を構成するのが、地区の3団体「右京地区民生児童委員協議会」「高の原地区万年青年クラブ連合会」「連合福祉たすけあいの会」、3つのボランティアグループ「われもこう」「オレンジカフェ右京」「右京団地ふれあいサロン」、そして、有志個人会員である。昭和56年に結成された「われもこう」は「ふれあいサロン」を運営するほか、地域福祉活動の原動力となって来た。

「ふれあいサロン」について、平成18年から「水曜喫茶室」、平成28年に平城右京団地集会所に「よしみち」が誕生した。その間、「オレンジカフェ右京」が平成27年に北福祉センターではじまる。到来した地域の高齢化にも備えようとするものであった。

第2団地のヤングママたちの「高の原ふれあい会」が平成2年にはじめた「高の原フリーマーケット」と共催してきたが、寄贈品の種類と質の変化が顕著となった。バザーの運営を担う、社協スタッフの体力の問題も深刻となった。

高齢者をつつみ込む街づくりを目標に右京地区の見守りチームが発足した平成11（1999）年、奈良市の65歳以上の高齢者率は14.4%であった。ほぼ四半世紀を経た本年、令和5（2023）年9月1日現在、右京地区では65歳以上が38.13%、75歳以上は22.96%。

令和2（2020）年1月6日、厚生労働省は、前年10月以降中国の武漢で新型コロナウイルスを確認。瞬く間に感染が拡大し全ての活動が休止を強いられたが、感染の波のあいだをぬって社協の活動はつづけられた。

そして、「敬老の集い」が2023年、4年ぶりに再開されるなど、少しずつ通常に復帰しつつある。

これからの社協は途絶えていた地域のみまもりの活動が大事になるだろう。おたがいが気づかいあうネットワークを穏やかに地域に広げることこそ、地域福祉の原点ではないか。

# 地区・地域の紹介 朱雀 すざく

## 「笑顔があふれるまち」をめざして

### <自治連合会>

昭和49年9月、平城ニュータウン全体で一つの自治連合会として発足いたしました。

当時の朱雀地区は、夜は暗くすこぶる危険でした。交通事故も多かったために、自治連合会が防犯灯や信号機の設置を市に要望し、徐々に街灯の設置が実現してきました。

また、現在のような集会所施設もなく、役員会は役員宅で開催しており、非常に不便であったことから、集会所（現朱雀地域ふれあい会館）の建設に向けて市や公団関係者と交渉し、現在の位置に建設してもらうことができました。（平成元年4月開館）

駐車場も、集会所前とコミュニティスポーツ会館前にあわせて50台分確保していただきました。

（現在は、令和4年にテニスコート東側に駐車場を新設し、コミュニティスポーツ会館前駐車場も増設整備し約70台分を確保しています）



公民館建設にあたっては、地域住民（朱雀・左京・佐保台）の人口が3万人必要であったが、それに満たなかったため却下されそうになりましたが、住民の力強い交渉の末、無事現在の位置に建設することができました。（平成2年5月開館）

町名についても、朱雀という名を正式町名（行政町名）にするため歴史学者等を招聘してシンポジウムや住民アンケートを取り、住民多数の賛同を得て現在の町名になりました。

## 朱雀地区の歩み

昭和52年	3月	朱雀二丁目自治会設立
昭和54年	4月	朱雀一丁目自治会設立
昭和55年	4月	朱雀小学校・平城高校開校
同		朱雀幼稚園・朱雀保育園開園
昭和56年	5月	朱雀五丁目自治会設立
同	6月	朱雀六丁目自治会設立
同	8月	朱雀第一住宅自治会設立
昭和58年	12月	奈良交通バス【高の原駅～朱雀5丁目～左京近隣公園間】運行開始（現在は循環運行）
昭和59年	4月	朱雀四丁目自治会設立
同	6月	朱雀第二住宅自治会設立
昭和60年	4月	朱雀三丁目自治会設立 平城東中学校開校
同	7月	平城ニュータウン自治連合会が朱雀左京・右京・神功各地区自治連合会に分割
同	9月	朱雀・左京地区社会福祉協議会設立
昭和61年	11月	朱雀・左京地区民生委員児童委員協議会設立
昭和62年	7月	高の原駅前団地自治会設立
平成 5年	4月	朱雀・左京地区自治連合会と、社会福祉協議会が、朱雀と左京に分割
平成 7年	12月	朱雀・左京地区民生委員児童委員協議会が、朱雀と左京に分割
平成 9年	2月	女性防災クラブ設立
平成23年	6月	自主防災防犯協議会設立
平成28年	7月	幼保再編委員会、平城第二号公園活性化委員会設立
平成30年	5月	平城第二号公園支援会設立（現在はふれあい公園支援会）
令和元年	6月	まちづくり協議会設立

## 【地域活動】

### ・夏まつり

昭和62年8月、朱雀第一住宅主催の「朱雀・左京地区夏まつり」開催。第1回目は二日間開催。当時の参加者等は不明ですが、平成19年からは朱雀地区単独で開催を続けています。

令和5年度コロナ明けで4年ぶりに開催した夏まつりにおいては、2,000人余りの参加者でにぎわい、朱雀の夏の風物詩になっています。幾度となく、猛暑による対応で、秋開催を考えてきましたが、未だ夏季に開催しています。

### ・音楽祭

平成27年から地域の文化発表会として定着しています。場所は朱雀小学校体育館をお借りし、地域の文化団体の日々の研鑽を積まれた素晴らしい発表や、子ども園から高校生までの園児・生徒さんのパフォーマンスに地域は癒され、楽しみにされています。今後も引き続き開催していきます。

### ・キッチンカーフェスタ

コロナの感染拡大で地域活動ができない状況の中、令和2年から朱雀ふれあい公園（平城第二号公園）北側エリアを利用して毎年秋に開催しています。関西の選りすぐりのキッチンカーと地域団体に出演していただき、普段食べることのできない食を提供すると同時に、コミュニティスポーツ会館前広場でイベントを実施し、地域の方に秋の一日を楽しんでいただいています。令和5年は、2,000人余りのお客様にご来場いただき大変賑わい、地域の活性化に役立っているとされます。



### ・ふれあい居酒屋

この事業もコロナ禍の中、何か自分たちでできることはないかという発想と、平成31年に社会福祉協議会が行ったワークショップで出た意見を踏まえ、取り組んだ事業になります。

企画、仕入れ、調理、提供すべてを地域で運営し、朱雀地域ふれあい会館で年3～4回開催しています。100名を超すお客様が来られ、地域住民同士のコミュニティの場となり、「地域の居酒屋」として大盛況な事業です。

こういった様々な事業は、たのしいまち、魅力のあるまち、笑顔があふれるまちづくりには必須なものであると考え、継続していく所存です。

## <社会福祉協議会>

### 朱雀地区社会福祉協議会の歩み

<昭和60年の発足～平成12年の継続事業>

夏まつり 敬老祭 パザー 介護研修 高齢者みまもり活動 広報紙発行 サンタ・マリア夏祭り・防災訓練支援 平城東中学校福祉体験学習支援 朱雀・左京地区社協杯ソフトボール大会共催 4地区社協連絡会など

<平成13年～>

上記に加え、社協活動学習会 住民福祉アンケート実施 地域懇談会開催 福祉研修年に数回 うた・楽器・喫茶サロン レベル別3種の体操教室 障害児子育てサロン 在宅介護者交流会 介護福祉機器展 「福祉ガイドブック」2回発行 奈良市子ども居場所づくり事業・放課後子ども教室事業主催 認知症見守り声かけ模擬訓練 まちづくり協議会発足 地区センター（のちの北部会館）建設連絡協議会参加 「奈良市地域福祉活動計画」策定委員会に参加など

<令和4年現在>

平成19年から継続している「脳の健康教室」には近隣左京地区からも参加がある。あとに続く地区がなかったため市内で唯一の開催となっている。

## コロナ禍における対処活動

- ・食品提供プロジェクト
- ・敬老ジャンボ!?宝くじ
- ・新鮮産直野菜市
- ・キッチンカーフェスタ協賛

## 4 地区社協合同活動

- ・平成13年合同講演会
- ・平成14年合同研修会
- ・平成16年福祉フェア（北部会館開設協賛）

# 地区・地域の紹介 左京 さきょう



左京祭り(左京小学校)

活動を行っています。その役割を担うために「防犯・防災・安全」「環境・街づくり」「福祉」「健康スポーツ」「生涯学習」「総務・広報」の6部会と「見守り活動推進」「左京祭り」の2つのプロジェクト活動を進めています。

## 【左京地区自治連合会】

1983年後半の入居開始より40年の歴史があります。1993年に朱雀・左京合同自治連合会から分離し、左京地区自治連合会が組織化されました。

7つの自治会とオブザーバー（左京団地）で構成しています。

「自治会長連絡会：4回」「役員会：12回」「左京祭り実行委員会：7回」「ふれあい会館運営部会：12回」を年間開催し、地域に寄り添った活動を実施しています。

### 《過去の活動推移》

- \*2005年：ごみ焼却施設に関する公害調停成立
  - \*2006年：おやじの会設立
  - \*2006年：第1回コンサートイン左京開催
  - \*2008年：第1回「左京祭り」開催
  - \*2010年：「左京の森」開園
  - \*2010年：左京グリーンサポートクラブ設立
  - \*2011年：第1回「左京さくら祭り」開催
  - \*2013年：第1回「焼き芋の集い」開催
  - \*2013年：「告知用看板」2ヶ所常設設置
  - \*2014年：左京サウンドソナーレ活動開始
  - \*2017年：左京の森・イルミネーション
- 以来、継続できる行事を具体的に毎年実施しています。
- \*その他活動
  - ・地域ふれあい清掃（年2回）

## 【左京地区自主防災防犯部会】

2008年自治連合会の内部組織として発足し、地区の防災・防犯活動を行っています。地域連携の為、左京小学校、子ども園も部会メンバーとして情報共有を行い広く活動しています。

### 《主な活動》

- ・自主防災防犯部会開催（年7回）
- ・奈良市総合&左京地区自主防災訓練
- ・地域防犯パトロール（年2回）
- ・防犯講習会（奈良県警）
- ・AED講習会（奈良北消防署）
- ・災害時備蓄品を年次計画で購入
- ・避難行動要支援者支援活動
- ・防犯のぼり製作（毎年標語交換）など



ふれあいランチ会(奈良市総合福祉センター)

## 【左京地区社会福祉協議会】

左京地区の地域福祉の増進を目的に、ふれあい会館だけでなく地区内の奈良市総合福祉センターも利用しながら活動しています。

### 《主な活動》

- ・おきががの食事会（子ども食堂）
- ・ティーパーティー
- ・ふれあい寄席
- ・関西大学落研OB/OG「グループいっせき」
- ・福祉ソフトボール大会
- ・障がい者と健常者が楽しみながら相互理解できる機会として、ハンデ無しで試合を実施

サロン活動（通所型サービスB事業）として

- ・ふれあいランチ会
- ・元気ならエクササイズ
- ・踊りを楽しむ会

その他、地域協議会と連携しての見守り活動や「カフェテラス左京」、お困り事の「くらしのなんでも相談室」随時実施など

## 【左京地区女性防災クラブ】

阪神淡路大震災を契機に1997年に設立しました。「自分達の街は自分達で守る」を合言葉に日頃から知識の向上や有事の手順等の習得に努めています。

### 《主な活動》

- ・地域防災訓練時には「炊き出し訓練」
- ・年末には「年末防火・防災パトロール」を行い火災防止を呼び掛けています。

## 【左京地区民生児童委員協議会】

左京地区では現在、民生児童委員9名、主任児童委員1名の10名体制で活動して地域の諸団体（地域包括支援センター、奈良市社会福祉協議会、警察署、左京地区地域協議会、自治連合会、8つの自治会、左京地区社会福祉協議会協、小学校、子ども園など）と連携し安心・安全なまちづくりを目指し活動しています。大人にとっては安心して生活でき、また子供にとっては安心して成長できる地域を目指し活動して参りたいと思います。

### 《主な活動》

- ・地域の方々のお困りごとなどの相談活動
- ・お一人暮らしの高齢者や障害をお持ちの方等への定期的な訪問見守り活動
- ・地域の各種行事、会合への参加、協力
- ・見守り支援員との連携による見守り活動
- ・地域連携による見守り活動（下校時の見守り、緊急時の避難行動支援、駅頭警戒）
- ・「くらしのなんでも相談室」事業への協力
- ・地域諸団体との連携による各種啓蒙活動
- ・県や市が主催する行事への参加など

## 【奈良市地区赤十字奉仕団・左京分団】

奈良市では、10分団で組織されています。日本赤十字の人道・博愛・奉仕の精神を地域の皆様に理解して頂ける様に地域に根差した奉仕活動を展開しています。

### 《主な活動》

- ・献血推進運動
- ・共同募金、義援金、救援金募金活動
- ・敵・味方供養碑追悼式
- ・長島愛生園（ハンセン病施設）訪問 など

# 地区・地域の紹介 佐保台 さほだい

## 【地勢と沿革】

奈良県と京都府の府県境界には平城山（ならやま）と呼ばれる小高い丘陵地が連なっており、その平城山丘陵の東端に佐保台地区はあります。都市計画道路奈良阪南田原線（通称外環）の開通により、昭和40年代からあった宅地開発構想が具体化し三井不動産が昭和50年代の初めに奈良阪町と佐紀町にまたがる43.8haの開発許可を得た。当地区全域が風致地区に指定されていることもあり①集合住宅は認めない②一区画当たりの面積は250～300㎡にする③開発地の周囲は緑地帯を設置するなどの開発指導があったとのこと。そのため、宅地は約750区画と少なくなったが緑豊かな住宅地が形成され、昭和58年12月から入居が始まりました。

## 【管理組合の設立と解散】

佐保台地区は木津川（京都府側）流域のため、排水を奈良市の公共下水道に接続することができなく、単独の下水処理施設が設置された。また、住民のための集会所として三井佐保山住宅集会所が建設、テレビの共同アンテナ施設（CATV）も設置された。これら三つの施設を管理運営するため、住民による管理組合が設立され、入居者はこの管理組合に加入することが義務付けられた。その後、下水処理施設を住民が管理運営していくことは、経費面、技術面において負担が大きいため、市に移管を求め、平成8年に市へ移管された。また、テレビ受信施設については民間のテレビ受信も含めたインターネット網の発達により、効率性、利便性の観点からテレビの共同受信施設を廃止した。

開発業者が建設し管理組合が運営していた集会所については、奈良市が小学校区毎にふれあい会館の整備を進めていたことから、奈良市へ無償譲渡し、新たに佐保台地域ふれあい会館として平成21年に市の公の施設となった。この無償譲渡については一部反対意見もあったが、市の施設になることによる、大規模修繕や光熱水費が市の負担となること、また指定管理料収入があることから、地域の負担が軽減され、そして、奈良市もあらたに用地取得、施設建設の必要がなくなる

ことから、双方にメリットがあったと思料される。なお、ふれあい会館は平成23年に、市が1棟を増設し、大幅に利便性が上がった。

このように、管理組合が運営していた3事業が終了したことから平成21年に無事解散することとなった。

## 【平城山駅の開業】

当初佐保台地域住民の交通手段はJR奈良駅から近鉄奈良駅を経由して佐保台地域内を抜け近鉄高の原駅を結ぶ奈良交通の路線バスのみであったが、地域の西側をはしる国鉄（現JR）関西本線に新駅建設の構想が持ち上がり、国鉄も周辺に車両基地設置を予定していたことから、新駅「国鉄平城山駅」が昭和60年12月に開業し、大阪、京都への通勤・通学の利便性が向上した。

なお、建設に伴う費用は駅舎並びに住宅地を結ぶ跨線橋そして当初の運営費すべてを当地域の開発者である三井不動産が負担した。

## 【佐保台小学校の開校】

開発計画における土地利用図には、地域内に小学校と幼稚園の設置が示されており、広告図面にも同様の図面が記載されていたが、入居が始まって、市による小学校建設の動きは無く、小学生はバスで朱雀小学校へ通学していた。地域内に小学校があることが購入のきっかけとなった住民もおり、また、小学生の数も増えてきたことから、小学校建設を求め、市に働きかけ、昭和62年4月、佐保台小学校が開校された。

当初約180人の児童が在籍したが、平成8年ころから児童数が減少し平成20年には児童数74人となり、複式学級や廃校になるのではとの噂話もできるようになったが、その後、佐保台西町や佐保台一丁目（ビバリーヒルズ）の入居が始まったことから、平成20年を底に児童数が増え始め、令和5年には188人の児童が学んでいる。

## 【奈良北地区土地区画整理事業】

奈良市は平城山駅設置計画に伴い駅へのアクセスの必要性から、国鉄関西線と国道24号線に挟まれた南北に長い歌姫町、佐紀町、奈良阪町に属する約13haにつ

いて土地区画整理事業を計画した。

昭和61年2月に事業を開始し、平成4年3月に事業完了となる「奈良北地区土地区画整理事業」が施行され、新たに佐保台西町となった。この区域内には、奈良市の公共施設として勤労者総合福祉センターと人権啓発センター（その後廃止）が建設された。

## 【大型スーパー建設反対運動】

平成10年ころに佐保台二丁目の西側の山林に大型スーパー建設計画が持ち上がった。郊外型スーパーで大きな駐車場を設置することから、住民の交通公害を心配する声が上がった。反対署名運動の結果、多数の署名が集まり奈良市などへ陳情したところ、この大型スーパーの計画は取りやめとなった。

その後、しばらくして当該地の佐保台一丁目は住宅地として開発され、ビバリーヒルズの愛称で売り出され、電柱のない美しい街並みが完成した。

## 【わが街の自慢】

佐保台を来訪した方々から聞く声は「美しい街ですね」というお言葉です。朝から道端を清掃する方をよく見ますし、公園はグリーンサポートボランティアクラブや万年青年クラブの会員の皆さんが毎月除草や清掃をしてくれており、歩道の清掃も定期的に行われています。これも緑豊かな閑静な街で暮らしたいと入居された住民の気持ちの表れです。

今、当地区の課題はJR平城山駅のバリアフリー化と太陽光発電業者が行った緑地破壊の復元です。かつて、この町では小学校開設、下水処理場市移管、大型スーパー反対などで住民が運動を起こし、実現してきたことに学び、これら二つの大きな課題に取り組んでいきたいものです。

## 【佐保台の地域活動】

### ●自治連合会

昭和63年結成。地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、自主防災防犯協議会と連携・協議して地域の安心・安全の取り組みを進めるとともに、地域の要望を取りまとめ住環境の改善を進めている。また、とんど焼き、夏祭り、文化祭を開催し、地域住民のコミュニティ増進に努めてきた。昨年より夏祭りをリニューアルした佐保台ふれあいフェスタを行っている。地域自治協議会が結成後は、とんど焼き、文化祭

などの主管を自治協議会に移管し、相互の役割を理解、分担し地域活動を担っている。現在は当地区の重要課題である、「JR平城山駅のバリアフリー化」「太陽光発電事業による緑地破壊の復元」に取り組んでいる。

### ●地域自治協議会

令和2年4月に結成。地域内の各種団体はもとより事業所や連合会未加入自治会・住民も巻き込み活動を行っている。特に地域内の高齢者福祉施設の協力により、実施している、買い物支援送迎車サービスは特筆すべきものです。

- ・文化祭の実施（芸能発表会・作品展示会）
- ・軽スポーツ大会の実施
- ・とんど焼きの実施

### ●地区社会福祉協議会

平成22年9月結成

- ・ふれあいサロン：ふれあい広場を開催し、歌声サロン、健康出前講座、介護予防講座などにより高齢者の健康とつながりの増進に努めている。
- ・手軽な健康ウォークの開催
- ・生活、健康、福祉なんでも相談会の開催
- ・放課後子ども教室の運営に参画

### ●自主防災防犯協議会

防災避難訓練、避難所開設訓練を通して、住民の防災意識の向上を図っている。また、防災倉庫に災害時応急対応備品や備蓄物資の確保に努めている。

- ・迷惑駐車追放防犯パトロールの実施
- ・児童登校時見守りパトロールの実施
- ・親子防災教室の実施

### ●グリーンサポートボランティアクラブ

毎月、地域内の3か所の街区公園の除草、清掃、低木の剪定を行っており、子どもたちのあそび場や高齢者の憩いの場を提供している。また、2か所の花壇も整備しており、やすらぎの場となっている。

### ●万年青年クラブ

会員数130名を超える、地域内の最大のグループ。カラオケや手芸などの趣味を楽しむグループやいきいき健康塾という踊りやダンスを楽しむグループが活動している。また、公園や道路の清掃活動も定期的に行っている。

# 地区・地域の紹介 相楽台 さがなかだい

## ◆◆ 相楽台地域自治会連合会 ◆◆

### 【相楽台地域の紹介】

- ・地域の範囲：イオンモール高の原の北側の相楽台1丁目、2丁目、3丁目及び近鉄京都線と京奈和自動車道に囲まれた相楽台4丁目、5丁目、6丁目、7丁目、8丁目、9丁目
- ・地域の世帯数及び人口他（2023年9月現在）  
世帯数：2,099世帯  
総人口：4,934人
- ・自治会：2丁目、5丁目、6丁目、7丁目、8丁目、9丁目、高の原駅東地区団地（以降、「駅東」と呼ぶ）の7自治会
- ・自治会入会世帯数(2023年4月)：1,071世帯
- ・全自治会の総世帯数：1,690世帯
- ・自治会入会率：約63%

※賃貸UR集合住宅の駅東は約24%と低い

※戸建ての多い自治会も年々入会率が低下傾向にある

### 【相楽台区自治会連合会発足の経緯】

平成12年（2000年）に高の原駅東地区団地自治会より相楽台区の6自治会に連合会立ち上げを呼びかけ、6自治会の合意により平成13年度の各自治会の総会にて相楽台区自治会連合会（以降「連合会」と呼ぶ）及び相楽台区自治会連合会規約が承認され、連合会が発足。また、平成14年3月21日に駅東より区長として戸田久仁彦氏、2丁目より副区長として吉田明氏が連合会より推薦され、木津町へ区長並びに副地区長の推薦状を提出し、木津町に受諾された。

連合会が正式に産声を上げたのは平成14年3月（2002年）

### 【連合会組織と活動経緯】

#### 1. 連合会組織

（各自治会の会長・副会長：14名）

会長、副会長2名、事務局長、会計、監査2名、運営委員7名

地域長 副地域長 社会福祉協議会委員

民生児童委員 顧問（防災関連）

防災関連アドバイザー（令和2年より）

防災アドバイザー 防災士2名

#### 2. 活動経緯

##### イベント関連

##### ・町民運動会参加

平成19年3月12日の旧木津町、加茂町、山城町の3町が合併して木津川市になってからは会場が遠隔地になる事が多く、連合会として参加していない。

※平成13年に女子リレー決勝へ進む

##### ・木津川市小学生ソフトボール大会参加

10日間程の早朝練習へ役員が協力

練習の手伝いに参加し、子どもと大人のコミュニケーションの場として重要なイベントと思われた（筆者の感想）。

##### ・餅つき大会（11月中旬）：平成19年（2007年）より令和元年（2019年）まで開催。以降3年間はコロナ禍により中止

参加者数：350人～500人

※地域住民のコミュニケーションの場として大いに盛り上がった（筆者の感想）。

##### ・防災訓練：餅つき大会と同日に実施

##### ①炊き出し訓練

小学校の連合会の防災倉庫に収納している炊事道具にて参加者へ豚汁提供

※400～500人分

##### ②消火訓練⇒消火器操作、道路設置の消火栓操作見学・体験

##### ③救急救命訓練⇒AED操作、三角巾活用、傷病者運搬、通報、避難

##### ④その他、体験・見学⇒起震車による地震体験、消防車見学

※訓練の全てが体験しないとその場に直面するとできないと感じた。又、繰り返し訓練しないとすぐに忘れてしまう（筆者の感想）。

##### ・木津川市青少年育成委員会

イベントへ参加及び運営協力

##### ・子ども安全安心ネットワーク会議

子ども通学路の安全確保への協力

##### ・高の原防災ウォークラリー参加

令和元年11月17日（2019年）

### 《筆者の思い》

住みよい高の原を更に進化させるには安全・安心な、そして住民のコミュニケーションの場が多い街づくりが必要と思います。

その為には自治会組織は不可欠であり、自治会を支えている自治会員の協力が重要と考えます。高齢化社会の中での自治会の在り方を改めて考え直す必要がある時期に来ているのではないのでしょうか。



## ◆◆ 社会福祉協議会相楽台区支部の歩み ◆◆

### 【街のはじまり】

渋谷川を挟んで東西を覆う山林一、昭和53年（1978）、相楽台に住まいを求めて土地を購入した人曰く、「うちのどのへん？」と不動産屋にたずねると、「山林の、あのへんです」「どこですか？」「ホラ、あのへんです」「？」という状況だったとのこと。以来まもなく50年、ここまで、よくも成長をとげたものだとい昔の感に堪えない。

### 【福祉組織のはじまり】

新たに開かれたニュータウンには、しかしながら、伝統的な街には確乎として存在する街の仕組みやしきたりが、ない。そこを補完して住民の暮らしが豊かに営まれるためには、近隣のつながりを基盤とする自治会、さらに広く相楽台全体を基盤として木津川市や京都府とも連携をとりながら住民の福祉向上をはかる社会福祉協議会、その支部を、文字どおりゼロから立ち上げてゆく必要があった。

この地域では、平成2年（1990）9月、「西木津台地区

支部」の呼称で兜台と相楽台2丁目を単位とする福祉活動が始まった。その後、相楽台の開発が進んだのに応じて、平成9年6月、「西木津台地区支部」を解散、「相楽台区支部」と「兜台区支部」として活動を展開することとなり、現在の体制が開始された。

### 【住民福祉活動の展開】

福祉活動の基本は、住民間の連帯とボランティア精神。この地域では、「新緑のつどい」「健康長寿講座」「特殊詐欺被害防止講座」、あるいは各種サロンの開催など、地域の親和関係の構築と生活意識の向上をめざす催しの企画・開催に総力をあげて取り組んでいる。さらにこれらの活動に1人でも多くの住民が参加されるよう、毎月、広報誌を作成、全戸に配布している。

広報誌のはじまりは、平成23年（2011）創刊の「社協相楽台区支部だより コスモス通信」（年2回、第4号まで）。26年1月、「ミニ・コスモス通信 相楽台」を創刊（毎月）。30年12月、第60号記念特集を発行。令和4年（2022）4月、第100号記念誌を発行。第101号より、福祉活動の初心にたちかえるべく、誌名を「コスモス通信 相楽台」に戻して継続、今年令和5年中に第120号に達することになる。

### 【ふくらむ課題】

二つの大震災、近年多発する大型台風や想定外の豪雨など、危機管理の必要が高まる昨今、よく「自助」と言われるが、それで凌ぎきれぬものではあるまい。地域福祉の課題は、「住みよい街をつくる」ととどまらず、力を合わせて「住みよい街を守る」ことへと、大きくふくれあがったということである。そのためには、1人でも多くの住民が、義務や当番ではなく、ボランティア精神で自主的に支部の活動に参加していただくこと。その実現のために、さらなる努力が必要である。



2023.10.4 福祉委員会にて

# 地区・地域の紹介 兜台 かぶとだい

## 我が街「兜台」

家康が伊賀越えの時に兜を脱いだことに由来するとも言われる我が街兜台は、昭和53年に日本住宅公団により開発が始まり、昭和61年に相楽ニュータウンとして街びらきしました。

UR都市機構の記録によれば、街びらきの時には、記念マラソンやパレードなどが盛大に開催されたようですが、残念ながら地域には当時の様子を伝える資料は残っておりません。

同年4月には、木津町立高の原小学校、木津第二中学校、そして京都府立南陽高等学校が開校して、その後の人口流入により、現在は約3,000世帯、6,700人が暮らす街となっています。

## 自治会連合会結成

平成6年7月には、各丁内ごとに作られた自治会が集まって、兜台区自治会連合会が結成されました。結成の趣旨は「各自治会の親睦ならびに情報交換を図る」と会則に記されました。

街全体は新しくできたニュータウンですから、ハード面の整備や修繕より、むしろ交流や生活の利便性向上を目的として理事会で議論が進みました。その交流を図る行事として、平成8年には第1回ボウリング大会が開催されました。ボウリングは子供から高齢者まで



25年間開催されたボウリング大会

が楽しめるスポーツとして人気を集め、参加者も年々増え、最初の頃は定員の150名を超え、出場者は抽選となるほどの盛況ぶりでした。

## さくらまつり開催

平成11年には、自治会連合会の最大行事である「さくらまつり」が兜谷公園で初めて開催されました。桜を楽しむながらの餅つき、炊き出し訓練を兼ねた鍋料理などの屋台も人気で、防災啓発のために行う防災クイズも楽しくなるよう工夫が施されて兜台に住んで良

かったと実感できる行事となっています。参加者500名を超えるこの行事は、8名の連合会理事だけでの実施は到底不可能で、連合会内に設置されたスポーツ委員会（現：健康福祉委員会（現：健康福祉委員会）の皆さんが運営に活躍されています。



自主防災会による防災クイズ

## 木津町民運動会での活躍

自治会連合会内に設置されたスポーツ委員会は、合併前の木津町民運動会で輝かしい成績を残しました。

平成11年9月には区対抗リレー女子の部で初めアベック優勝の賞状で優勝を果たし、計3回の優勝という成績を残しています。このように輝かしい結果を出した女子リレーにより「兜台は女性が強いぞ」とまで言われていました。この力学が、家庭にも及ぶことに危機感を抱いた男子の部も、負けてはならないと発奮して平成17年には念願の男子リレー初優勝を果たしました。その年は女子リレーも優勝して、悲願の男女リレーアベック優勝を達成したのです。

この頃の兜台選手団は総勢300名超え、テントも6張、木津町内でも最大の選手団を形成していました。リレー選手の選抜、お弁当や飲み物の手配、応援を盛り上げるなど、スポーツ委員会が果たした役割は大きかったと思うと同時に、兜台が一番元気があった頃かもしれないと少し懐かしく思い出されます。

## 街びらき20周年

平成18年には街びらき20周年を迎えました。盛大に祝った昭和61年の街びらきには程遠く、周りの関心も薄れ20周年という言葉さえ聞かなくてこない状況でした。自治会連合会では、これでは余りにも寂しいの



KCN京都の取材の中で開催

で、それなら自分たちの手で祝おうと毎年4月に開催している「さくらまつり」を街びらき20周年記念事業として開催しました。

当日は雨となり兜谷集会所での開催となりましたが、各自治会が一文字ずつ手書きで書いた文字をつなぎ合わせた横断幕が掲げられ、街の移り変わりが映像で紹介されました。華を添える琴が演奏される中、参加者全員で20周年を祝いました。

この行事の様子はKCN京都の特別番組として放映され、地元新聞でも紹介されました。さらに、街の変化の様子をA4二つ折の簡易版にまとめた20周年記念誌が発刊されました。また、今後の街の課題として、横の世代のつながりだけでなく、縦の世代のつながりを深めることが必要だと、次の10年の活動に期待が込められました。



開発前の街の様子から開発途中、開発後の写真を掲載

## 20周年から30周年にかけて

この間の大きな出来事は、何と言っても平成19年3月の3町合併により木津川市が誕生したことでした。

同年5月には高の原駅前大型商業施設イオンショッピングセンターが開業したことも街にとっては大きな変化でした。いずれも不安はありましたが、合併は生活圏を広げただけではなく、交流や情報を豊かにしてくれ、商業施設は賑わいと利便性をもたらしてくれました。平成23年に発生した東北大地震は、自治会の取り組む方向を大きく変えました。同年10月に自治会連合会が設置した自主防災会掲示板は、防災活動強化を表したものでありました。一方、街の人口は平成19年から20年頃の約7,700人をピークに減少傾向をたどり、

現在の人口は約6,700人とピーク時から比べると1,000人の減少となっています。この原因は、兜台で育った子供たちの転出が原因です。

## 社会福祉協議会兜台区支部

社会福祉協議会兜台区支部は、2025年の10年前となる、平成27年に、世代間交流を中心とした中期5か年計画と10年ビジョンを策定しました。これらは、高齢化



平成28年とんど焼き

を地域で支えていくことを目的に策定されました。街びらき20周年の課題であった縦の世代のつながりを深めるための世代間交流事業などが具体策として盛り込まれ、街びらき30周年となった平成28年に第1回兜台とんど焼きが開催されました。

## 30周年から平相50、そして未来へ

30周年となった平成28年には自治会連合会から各自治会の報告などが掲載された記念誌が発刊されました。平城・相楽ニュータウン街びらき50周年の年となった令和4年11月には記念事業に参加し、新たに奈良市の方や事業者の方と交流が広がりました。

## チャレンジ兜台

兜台のスポーツを振興させたスポーツ委員会は、時代の変化に柔軟に対応することを目的として令和2年に「健康福祉委員会」へ改称しました。

そして、参加者が減少したボウリング大会を25回で終了として、令和5年に新たに「ポッチャ大会」を開催しました。課題のない時代はありません。どんな時であっても課題は現実として受け止め今後も協力して解決に取り組んでまいります。

## 『流れも清き木津川を はるかに望むこの丘に』

高の原小学校校歌ができたのは平成3年。この校歌を歌い、兜台を巣立った子供たちが、もう一度兜台に戻りたい、私たちはそういう街をつくっていきたくと思います。

# 地区・地域の紹介 **桜が丘** さくらがおか

## 【桜が丘一丁目】

桜が丘一丁目自治会では、会員相互の親睦を図り、様々な地域活動を通じて、住みよいまちを実現することを目的に活動しています。

### 1. 概要

- ・会員数：211世帯（令和5年4月時点）
- ・役員：会長、副会長をはじめ12人で構成

### 2. 令和5年度の主な活動内容

○クリーンリサイクル運動（年2回）

令和5年度延べ参加者数：327人



令和5年度活動の様子（クリーンリサイクル運動）

○桜が丘見守り隊の活動支援：地域見守り隊、子ども見守り隊、高齢者見守り隊による地域防犯パトロール

○未就園児や高齢者が集うサロン活動団体等への支援：未就園児支援サークル「さくらっこ」、高齢者サロン「わの会」等

○桜が丘一丁目自主防災会と連携した防災活動の展開：住民の防災意識向上、災害時の支援体制構築のため、防災セミナーの開催、災害時非常食等の常時備蓄、防災マニュアルの全戸配布等、様々な活動を展開。

### 3. 10年間の歩み

H23. 6：東日本大震災を教訓として、「桜が丘一丁目自主防災会」を組織化

H24. 7：町内の防犯や交通安全向上のため、「桜が丘見守り隊」を組織化

H24. 11：木津警察署とのコラボにより「地域見守り箱」を町内11か所に設置

H25. 10：京都府で初めてとなる「ゾーン30」の規制が開始

H26. 7：桜が丘見守り隊が「京都府防犯まちづくり賞」を受賞

H28. 4：桜が丘見守り隊に「高齢者見守り隊」を設置  
H28. 4：精華町小地域福祉委員会活動として、桜が丘一丁目福祉会「ひまわり」を組織化

R 2. 8：桜が丘見守り隊に「青色防犯パトロール車」を配備

## 【桜が丘二丁目】

### ○桜が丘二丁目自治会

年2回（5月・10月もしくは11月）クリーン作戦と称して、朝8：30から自治会員様にお集まりいただき、地域の草抜きや、清掃作業を行っています。2023年は作業後、精華町消防本部による救命講習を行いました。

### ○悠々会（老人会）

平成15年、会員数約30名で設立。当初は談笑・趣味・手芸等のサロン活動を開始。その後花を観る会、歴史散策等の屋外活動を実施。会員の増加と共にサークル活動が活発化し囲碁・麻雀・カラオケ・グラウンドゴルフクラブが誕生、特にグラウンドゴルフクラブは平成29年島根県、30年山梨県へ連続して全国交歓大会に京都府代表として出場し、精華町内でも強力なクラブに成長し今も活躍中です。現在地域児童の登校時の見守り（キッズヘルパー）、一人暮らしの会員やお年寄りへの安否確認（シルバーヘルプ）活動にも取り組み、助け合う街づくりの活動に協力しています。

### ○サポート委員会

2023年2月桜が丘二丁目の安心安全を目指して見守りや見回りを行うこと、日常生活における相互扶助のためのサポーターを募ることを提案して設立されました。悠々会（老人会）・桜が丘つながるプロジェクト・桜が丘二丁目体操クラブの三団体と自治会長・防災会長・地区福祉推進委員・民生児童委員とボランティアで構成しています。

5月粗大ごみ出しのお手伝い・回収後の見回りとゴミ拾い、児童登下校時の「ながら見守り」等の活動を開始。11月には山田荘小学校児童対象の「こども防犯教室」を小学校PTA地域委員と共同で開催しました。

## 【桜が丘三丁目】

桜が丘三丁目の近くには、池谷公園という大きな公園がありますが、車道を横切らなくてもすむように、横断歩道橋が設置されています。また地域内には、町立いけたに保育所を有しており、子育てがしやすい環境が整っています。

地域活動の中心となる三丁目の集会所では、各クラブによる年齢層に応じたサロンの開催が行われ、自主防災会による災害に対する管外研修などにも使用されています。

桜が丘三丁目自治会としては、今年度より自治会役員の負担軽減を目指すため、新しい自治会活動の形を模索しておりますが、年3回、17班ごとに行う「クリーンリサイクル運動」では、毎回地域をきれいにしようと、多くの方に参加頂いております。



桜が丘三丁目集会所

## 【桜が丘三丁目エスペローマ】

桜が丘三丁目エスペローマが出来て30年近くになります。当初は、子育て世代が主で学校行事を通じて活動も盛んでしたが、現在は子どもが独立した世代が多くなり、シニア・シルバー世代で気楽に交流している状況です。

### 【活動について】

コロナ禍以前は、ふれあい祭りという一大イベントを毎年開催して住民の楽しみとしておりましたが、最近では休止状態です。子どもが多い頃は精華町の体育大会への参加も積極的で、表彰された競技も多数あります。自治会でキリンビール工場や信貴山のどか村への日帰り旅行をして、住民交流を図ったこともありました。

## 【年間活動】

- ・クリーンリサイクル活動
- ・防災訓練、消火訓練
- ・AED講習
- ・防災資機材の点検と購入
- ・備蓄食材の管理と補充
- ・花いっぱい運動
- ・夏と冬の夜間合同パトロール
- ・年3回の募金活動
- ・クリスマスイルミネーション（12月から3月）
- ・エスペローマの紹介新聞の発行（年3回）
- ・自治会・管理組合の会議（毎月）
- ・定期総会（4月）

## 【桜が丘四丁目】

桜が丘四丁目自治会は、昨年4月に第30回の定期総会を開催し、一つの節目を経過しました。

自治会役員会（運営委員会）及び各班長を中心に、地域内にある「老人会（華桜会）」や「小地域福祉委員会」及び「にこにこサロン」等の周辺団体と連携した活動を展開しております。

自治会独自の大きなイベントとしては、昨年の8月には4年ぶりに夏祭りを開催し、約800名の参加を得て楽しい有意義なイベントとして地域の皆様の大きな評価を頂きました。今後も「夏祭り」の継続開催を実施することで地域の皆様のご期待に応えたいと考えております。また、昨年12月には、「地域敬老活動」としてコラボ音楽会を開催する事が出来ました。

主な年間行事としては、四半期ごとのクリーン活動を実施することで地域内美化を維持すると共に、「花いっぱい運動」への参加を行いました。各募金団体の企画する募金活動にも参加し、自治会員の皆様のご協力を頂いています。

更に、地域内の見守り事業としては、登下校時の見守りや高齢者に対する見守り事業も周辺団体による取組で継続的かつ効果的に展開しています。

昨年5月には、従来の集会所の増築工事が完了し「高齢者等指定避難場所」としての役割を果たしつつ、日常的には各種イベントの開催場所として有効かつ効果的に運用しております。





## 令和4年4月に平城西中学校、神功小学校および右京小学校が統合し、奈良市立ならやま小中学校が開校しました

### 右京小学校50年と未来に向けて

#### 1. 右京小学校の廃校と新しいまちづくりへの挑戦

令和3年12月1日創立50周年を迎えた右京小学校が開校され、令和4年4月をもって神功小学校と共に統廃合され、新しく「ならやま小中学校」として開校しました。

開校の理由は少子化による児童数の減少と「奈良市小学校規模適正化方針」に基づいたものですが、平城ニュータウンの中核である右京地区の住民にとっては残念で心寂しい事ですが、この小学校跡地を地域のアイデアで次の世代に引き継げる「新しいまちづくり」を目指しています。ここでは右京小学校の変遷と、跡地活用について述べさせていただきます。

#### 2. 右京小学校50年の変遷

- ・昭和47年 平城ニュータウン内に「平城第2団地」の入居が始まる
- ・昭和47年 右京小学校と平城西中学校が同時に開校される
- ・昭和54年 右京小学校生徒数が1,000人を超える
- ・昭和55年 右京・神功・朱雀に校区が分割され、朱雀小学校、神功小学校が同時に開校し、右京小学校から分離される
- ・令和3年1月 右京小学校創立50周年を迎える
- ・令和3年3月 右京小学校、神功小学校、平城西中学校が開校される
- ・令和3年4月 右京小学校、神功小学校、平城西中学校が統廃合され、「ならやま小中学校」が開校される
- ・令和5年6月 旧右京小学校の解体工事が始まる

#### 3. 右京小跡活用協議会の結成とまちづくり計画の推進

- ・令和元年10月、右京地区自治連合会が中心となり、

右京地区関係団体、平城ニュータウンスポーツ協会等が参加した「右京小跡活用協議会」が結成され、奈良市との検討会を定期的に開催してきた。

- ・各自治会も独自に「跡地活用についてのアンケート」等が実施された。
- ・奈良市と右京小学校跡活用協議会との会合は累計27回を重ねた。(2023年8月)

#### 4. 跡地利用に関する奈良市への要望事項

- ・地域の避難所として活用
- ・子どもたちの居場所（遊び場所・学びの場所）として活用
- ・文化・スポーツの拠点として活用
- ・地域の高齢化に沿った「デイサービス、ショートステイ」等の高齢者福祉施設として活用することを奈良市と協議を重ねている。

#### 5. 奈良市からの跡地活用の提案

奈良市より、旧右京小学校跡地をAゾーン（10,570㎡）、Bゾーン（8,540㎡）、Cゾーン（7,050㎡）に区分して活用する案が提案された。

- ・Aゾーンは、周辺の住宅環境を踏まえて高低差の少ない住宅地とする。地域住民の要請に沿った、記念公園（仮称「キッズパーク」）を住宅地内に設置する。
- ・Bゾーンの体育館は、平時はスポーツコミュニティ会館として、災害発生時は「地域避難所」として利用する。体育館の南側に管理棟を建設する。グラウンドは、地域が管理する広場として地域のあらゆる人々が自由に利用できるオープンスペースとして、またコミュニティスポーツ団体への貸出しも行うスペースとして利用する。
- ・Cゾーンは民間開発を前提として地域の高齢者が利用しやすい高齢者福祉施設の設置が検討されている。

旧右京小学校跡地は右京地区の大切な宝物でもあり、地域住民の意見や要望を聞き取りながら跡地協議会で協議を重ね「地域の方に喜んでもらえる新たな50年への街づくり」の重要案件として位置付けられます。

#### 6. 新しい街づくり、次の世代へ引継げる街づくり

平城ニュータウンの草創期、成長期、成熟期の半世紀を見守ってきたが地域住民にとっては、旧右京小学校がなくなるのは惜別の思いでした。

50年間、学校行事で築かれて、育てられた地域住民間の人的交流や、様々な右京の文化は無形の財産として残されています。

平城ニュータウン50周年を機会に、ニュータウンの名称から「高の原」と変化し新しいまちづくりが始まっています。右京地区の宝物である学校跡敷地26,160㎡（約8,000坪）の活用は、次の世代への大きな有形財産となります。新しくできる住宅地とキッズパークは新・旧住民の憩いの場となり、体育館や管理棟、グラウンドはスポーツを通して人々の交流が生まれ新しい文化を育む場になる事を期待します。

新たな高齢者施設も地域に喜ばれる運営体制になる事を期待しています。



1974年右京小学校開校時



1990年当時の入学式



奈良市からの右京小学校跡地活用計画図（イメージ図）



## 施設一体型小中一貫校、ならやま小中学校の誕生

1972年に児童数15名で開校した右京小学校は、7年後の1979年には30学級児童数1,122人のマンモス校になりました。神功・朱雀方面の開発が進むにしたがい更に児童数が増えることとなります。そこで、1980年右京小学校から神功小学校と朱雀小学校が分割されました。分割により右京小学校は25学級959人になり神功小学校は10学級286人での発足でした。その後神功小学校の児童数は増え2007年には21学級507人のピークを迎えました。しかし、新興住宅地の常で子どもたちが成長すると後が続きません。2021年には右京小学校は9学級180人、神功小学校も14学級231人まで激減しました。また、両校の校舎の老朽化も激しく、特に神功小学校では教室や廊下、体育館などで雨漏りが酷く、あちこちに雨漏りを受けるバケツなどが置かれている状態でした。

奈良市教育委員会では、2016年10月学校規模適正化後期計画を公表し、その中で平城西中学校区全体の教育環境を鑑みた小中一貫教育を軸とした統合再編を検討するとしました。統合の方向について、賛否両論がありました。2019年3月奈良市市議会本会議にて統合に向けて施設整備を盛り込んだ予算案が可決され、統合に向けての準備が始まりました。

### 先進校の見学

同年6月、地域住民有志は、小中一貫校の京都市立凌風学園と宇治市立黄檗学園の見学に出かけました。行って吃驚！これが学校！校舎内は明るく、教室も廊下も広くゆったりとしています。私たちがこれまで見てきた学校、教室が東西に並びその北側に廊下があるというのは昭和25年頃のモデルです。

文科省では、施設整備指針を定めています。それによると「児童等の学習のための場であるのみならず、児童や教職員の生活の場としてゆとりと潤いのある施設環境を計画することが重要である。」と書かれています。

ます。なるほど！

### 校名・校章・校歌

これらのことを決めるため、新小中一貫教育学校開校準備委員会が設置され計22回開催されました。

・校名については、児童、生徒、保護者、教職員、地域住民の公募アンケートを実施しました。応募総数307件の中から「ならやま小学校」「ならやま中学校」「愛称ならやま小中学校」と決めました。

・校章については、子どもたちと一般公募合計322点の応募作品の中から、山形県在住の菅野薫様の作品を選ばせていただきました。統合される神功小学校の校章から「鏡」、右京小学校の「花」、平城西中学校の「松」を取り入れたデザインです。3校の歴史や伝統・勉学・スポーツ・芸術・文化のあらゆる情報交流のきずなを大切に、新たな歴史を作っていってほしいという願いを込められたとのこと。

・校歌については、小学校と中学校を同じものにするのか、別のものにするのかという議論もありましたが、新設された小中学校に通う児童生徒が同じ校歌を歌うことの意味合いを重視し、1曲の校歌とすることになりました。

・歌詞については、全国に公募し、応募作品152点の中から埼玉県出身の宮崎宜男様の作品を選ばせていただきました。統合される「ならやま小中学校」に集う子どもたちが、それぞれの未来に向かって、健やかに成長して欲しいと想いを込められたとのこと。

・曲については各種作曲を手掛けている㈱オクターブミュージックに依頼しました。

### 最後に！

**この学校が、地域の子どもの学びの場、生活の場として末永く愛されることを祈念しています。**

## 高の原トピック

# 地域と高等学校とのかかわり

### 奈良県立平城高等学校

昭和55年4月開校。開校当初は地域との交流はあまりなかったが、昭和62年の地域の夏まつり以降、少しずつ地域連携が始まった。新しく「教育コース」ができ、近隣の小・中学校への教育補助やスクーリング、地域防災への支援、学校内の花植え協働事業、祭りや地域行事への参画協働など、順次拡大し、地域と学校のかかわりの礎を築き、絆を積み上げてきた。

ところが平成30年の「県立高等学校適正化実施計画」により平成31年4月（令和元年度）から募集停止し、令和3年度（令和4年3月）で閉校になった。少子化による学校再編であったが地域では受け入れがたく何度も県教育委員会に抗議したが叶わず、奈良高等学校が令和4年度（令和4年4月）に移転してくることになった。地域としては、それを受け入れるしかなく、朱雀地区自治連合会が県教育委員会へ緊急に学校運営協議会の立ち上げを要請した。平成30年9月から協議会を設立し、平城高等学校、奈良高等学校、平城東中学校、朱雀小学校、地域代表で協議を重ね、奈良高校移転後、①平城高校メモリアルルームを設置すること、②地域連携担当教諭を配置すること、③平城高校の地域連携を引き継ぐこと、④移転後数年は、県教育委員会から事情を理解している校長先生を就任させること、などを盛り込んだ約束を交わし、迎え入れる準備をした。

### 奈良県立奈良高等学校

令和4年4月に法蓮町から朱雀に移転。令和5年に創立100周年を迎えた。校内に『地域連携センター「平城山」（ならやま）』を設置し、担当教諭を置き、平城高等学校の地域連携を継承している。令和4年度および令和5年度、近隣の小・中学校へのオープンスクールや公開講座、地域の防犯活動への参画、すざく音楽祭への出演と司会協力、夏まつりへの出店・準備等への協力、キッチンカーフェスタへの出演、平城高等学校から引き継いだ平城東中学校区地域教育協議会主催行事「平城高校生と遊ぼう！」は、「わくわくフェスティバル in 奈高」に名称を変えて人気行事の一つです。その他細かい配慮により地域連携ができています。また、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の取り組み紹介や、文化祭の公開など、開かれた学校として地域にも溶け込んできました。

### 京都府立南陽高等学校

京都府立南陽高等学校は、昭和61年4月に相楽ニュータウンの高等教育を担う学校として開校しました。平成18年には京都府下全域を学区としたサイエンスリサーチ科が設置され、平成30年4月には附属中学校も開校しています。

「進取」、「敬愛」、「雄健」を目指す人間像とした教育方針のもと、部活動も積極的に行われています。中でも吹奏楽部は、平成23年に関西吹奏楽コンクールへ京都府代表として出場を果たしました。翌年の兜台さくらまつりで演奏を披露していただき大いに盛り上がりました。令和4年11月に開催された平城・相楽ニュータウン街びらき50周年記念事業でも開会のオープニング演奏を務めてくれました。

また、社協兜台が開催している兜台とんど焼きでは、生徒会が絵馬やおみくじを用意していただき子供たちから大人への励ましのメッセージとして大好評でした。このように、南陽高校には企画力と行動力で地域活動に参加いただいています。

## 1. 歴史遺産と自然環境を配慮した公園

平城山(ならやま)丘陵(きゅうりょう)と呼ばれたここ高の原には、多くの遺跡がありました。「石のカラト古墳」「押熊瓦窯跡」「歌姫瓦窯跡」「音如ヶ谷瓦窯跡」等です。また、緑豊かな自然に恵まれていました。ニュータウン開発にあたっては、これら遺跡や緑を公園・緑地として保存・活用されました。また、公園の配置にあたっては近隣住区論に基づき各住区(小学校区)に一つの近隣公園といくつかの街区公園、4つの住区に一つの地区公園が設置されています。

その結果、奈良市側には、地区公園1カ所、近隣公園5カ所、街区公園18カ所、10カ所の都市緑地があります。

木津川市にも、地区公園1カ所、近隣公園3カ所、街区公園6カ所が設置され、精華町桜が丘にも近隣公園1カ所、街区公園4カ所が設置されています。

## 2. 公園の愛称

相楽ニュータウン側の公園には、みはらし台公園・ひだまり公園・ふじだな公園などの通称が付けられ住民に親しまれてきました。

ニュータウン街びらき50周年を記念して、奈良市側の公園についても住民が親しみを持てる愛称を付けようということになり、各公園の愛称が決まりました。例えば、神功池公園、どんぐり公園、ピエロ公園、朱雀ふれあい公園(50周年事業に先立ち2019年に決定)等です。

## 3. 特徴のある公園

### ・プールのあった公園 平城第3号近隣公園

この公園には、1975年に奈良市営平城プールが開設されました。25メートルプール、ファミリープール、幼児用プールがあり多く子どもたちでにぎわっていました。しかし、少子化の影響で利用者が減少し、更に老朽化も進み2008年をもって閉鎖に追い込まれました。プール跡地は通常の公園と右京ふれあい会館として利用されています。

### ・池と「水神さん」のある公園 (神功池公園)

この場所には、灌漑用の菅池上、菅池下という二つの池があります。水蓮の花も咲き、野鳥も沢山いま

す。春には桜が沢山咲き乱れ人々を楽しませてくれます。この公園には「水神さん」と呼ばれる祠があり、毎年行われる神功秋祭りでは、宮司さんに来てもらい祝詞を唱えていただいています。

この祠の起源について次のように伝えられています。開発前、石のカラト古墳の西方向に「コウズイさん」と呼ばれる雨乞いの神様が祀られていました。

この地も開発区域に入るため「コウズイサン」は押熊八幡神社に引き取られました。神功地区住民の中で、神社が欲しいとの声が出て、押熊八幡神社から「コウズイさん」の神分けをしてもらって池公園に祀るようになったとのことです。

### ・万葉の草花を楽しむ散策路(万葉の小径)

高の原西部に東西約300mの小径があります。

36種の万葉植物と万葉集の山上憶良、大伴家持、持統天皇などの作品が紹介されています。また、「万葉人の衣・食・住」「個々の植物と万葉人の思想や生活との関わり」について解説が書かれています。

春に芽吹き、花咲き、夏に繁り、秋に紅葉し実をつけ、冬に枯れる。そして次の春に再び命をよみがえらせる。あるいは、冬も枯れずに一年中緑の葉を繁らせる木もある。かわいい花をつける野の草もあれば、天を覆うばかりに繁る大樹もある・・・



### ・スポーツ施設のある公園

#### ①朱雀ふれあい公園(平城第2号公園)

面積55,684㎡の大公園です。

ここには4面のテニスコート、野球も出来る球技場、ならやまコミュニティスポーツ会館(体育館)があり

ます。駅伝大会など様々なスポーツイベントが開催されており高の原のスポーツの中心地と呼べる場所です。



#### ②兜谷公園

この公園も面積約40,000㎡と広く、野球場、テニスコートがあります。



### ・府県をまたぐ石のカラト古墳

この府県をまたぐ緑地を、奈良市側では神功1丁目緑地、京都府側は八重桜の森と呼ばれています。

石のカラト古墳は、古墳時代終末期の8世紀初頭頃の築造と推定されている上円下方形です(この形状の古墳は珍しく全国でも10例以下といわれています)。

## 4. 住民提案による公園の魅力アップの動き

### ①神功池公園(平城第4号近隣公園)

開園から30年以上の時を経て不都合も生じてきました。そこでこの公園をより魅力的なものとするため神功池公園魅力アッププロジェクトを実施することとしました(2023年7月～)。

- i 池の水質改善。池への水の流入量が少なく水質が悪化しているので流入量を増やすことにより水質改善を目指します。
- ii 樹木が大きくなり、また勝手に生えた木も増え見通しや景観が悪くなっています。好い景観を損ね

ている樹木の伐採や大きな木の枝を切ることにより良い景観の回復を目指します。これら作業のうち低木の伐採など住民ができることは住民の手により実施することを想定しています。

### iii 多目的広場の設置

この公園は、神功秋祭りやトライアル・サウンディングの会場として利用されてきました。それら大規模行事を実施する場合、出店者・出演者などの駐車場が必要となります。これまで旧神功小学校の校庭をお借りしていたのですが、閉校により校庭がなくなりました。そこで、公園内の一部に必要な場合には駐車場にも使える多目的広場の設置の提案をしています。

### iv トイレの建替えや、州浜の改修なども申し入れています。

### v これらのことを実現するためにはそれなりの費用が掛かります。それを賄うために、ふるさと納税や各種寄付を集めることも課題となりそうです。



### ②平城第3号近隣公園

住宅地域内の公園を活用して個性と魅力あふれるアミューズメント・ゾーンを創り出す。子ども達が安心して遊びまわり、大人たちも憩いの場として人と人の交流が広がり、誰もが気軽に楽しめる。公園に多くの人が集まり、地域の活性化につながるような「奈良市トライアル・サウンディング事業」に協力して色んなイベントを実施してきた中で特に盛り上がったのが「奈良市公園夢プロジェクトお月見会(右京地区お月見会)」でした。

「令和5年度の中秋の名月」はコロナ明けもあり、近隣公園に人々があふれんばかりの大盛況。

「月々に月見る月は多けれど月見る月はこの月の月  
(詠み人知らず)」

今回のお月見会は奈良観光大使・高井俊彦様(吉本興業所属)のご協力で近隣公園に来られた人々は終始笑い・笑い・笑いで盛り上がり、名月も満喫できました。楽しいイベントを企画すると人々は喜んで参加して下さる。そんな勇気を頂きましたので、1月 トンド焼き、4月 桜祭り、7月 第2団地盆踊、8月 花火大会、9月 お月見会、10月 防災訓練、12月 年末餅つき会。この様なイベントを、公園を舞台に皆さんの協力を頂きながら実施して地域の人々が楽しく、憩える右京地区にして行きたい。

令和5年度右京お月見会



### ③朱雀ふれあい公園(平城第2号公園)

広大な公園を整備するため、地域で“ふれあい公園支援会”を立ち上げ、平成28年から中長期計画で奈良市と協働し、整備しております。令和2年度にトイレの新築、令和3年度に大型遊具の新設とコミュニティスポーツ会館の駐車場増設整備、令和4年度にテニスコート横駐車場の新設、令和5年度に時計台広場周辺のバリアフリー化大規模整備を実施いたしました。また、改修・整備をすすめるとともに住民による「キッチンカーフェスタ」や子供たちとの「水遊びイベント」などの活用も進めています。

今後もさらに公園全体の整備や活用を続け、老若男女問わず親しまれる公園にしていきます。

朱雀ふれあい公園のイベントなど



子どもたちが選定した大型遊具と住民で陶板「朱雀」を設置した新築のトイレ



キッチンカーフェスタ



子供たちとの水遊びイベント



出店やイベント満載の夏祭り

### 奈良市環境清美工場「公害調停」の経過

1 平成15年8月26日約3,200人の住民が、清掃工場の稼働に伴う健康及び生活上の被害をなくすため公害調停を申立てました。そして、平成17年12月26日調停が成立しました。

成立した調停では次のようなことが決まりました。

- ①平成20年3月末日を目標として、新施設の用地の候補地を選定すること。
- ②平成23年3月末日を目標として、新施設用地を確定すること。
- ③新施設の用地確定後速やかに新施設の建設工事に着手すること。

2 この公害調停に至る経緯などを紹介します。この記述は概ね奈良市清掃工場公害調停申請人の会発行「奈良市清掃工場公害調停の記録」に基づくものです。

- i 左京5丁目で焼却炉3基が初稼働したのは昭和46年のことでした。その後増設や建替えがありました。
- ii 平成4年、清掃工場の直近に左京小学校と左京幼稚園の建設計画が発表され、その説明会席上、「将来は清掃工場移転を約束する。」旨発言がなされました。続いて市から、第2工場を現地以外に建設する計画も発表されました。
- iii 同年9月、焼却炉の排ガスから730ng/m<sup>3</sup>のダイオキシンが測定されました。これは国が平成10年に定めた新設炉についての規制値の7,300倍の濃度です。地元住民は創業以来20年以上被曝してきたことになりました。
- iv 平成7年、大川市長が危機分散のため第二工場が必要なこと、平成12年度までに建設する意向を表明しました。ところが、平成13年になっても移転計画は実現せず、左京自治連合会はこれに抗議し「清掃工場撤去促進委員会」を発足させました。
- v 長年にわたる、住民の要望や決議に対して奈良市の対応は誠意のないものでした。そこで、清掃工場の移転と操業停止を求める公害調停を申立てました。

### 3 申請人らの主張

申請人らは、次のような主張をしています。

#### i 焼却による環境汚染の問題

ダイオキシン等様々な有害物質が排出されること。国の規制値は排出物が空气中で希釈されることを前提としているが奈良市の清掃工場の煙突が低いため拡散倍率が大幅に低いことが指摘されています。

#### ii 立地問題

「計画標準(案)」(1960年建設省)に照らし、市街地および市街地予定区域との距離、学校、病院、住宅群または公園との距離が著しく悪いことは明らかとしています。

#### iii 奈良市による移転約束

1992年に奈良市職員が、将来清掃工場を移転すると説明していたことも調停申請の大きな理由となっていました。

#### iv 住民間不平等の問題

この焼却炉が稼働を始めてから既に50年以上経過しています(この原稿執筆時)。特定の住民が長期間にわたり不利益をこうむる不平等を、住民の時間差による持ち回りによって解消することも必要と主張しています。

#### 4 調停成立後

調停条項では成立後10年間程度で新しい工場が設置され稼働することを想定されていました。今は、調停成立から19年になろうとしています。住民は一日も早い移転を求めるものです。最近一部の年から現地建替えを検討すべきとの意見も出ているようですが、3,000人を超える住民と市とが交わした合意を市が一方的に反故に出来ることはあり得ません。地元住民は、調停の趣旨にしたがい早期に移転されることと操業が停止されることを願っています。



## 高の原の各種団体活動 平城西公民館

### これまで、これからも、このまちとともに

平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年おめでとうございます。

まちびらきが始めて10年後の1980年、奈良市の北端、京都府と奈良県の府県境界に接する平城ニュータウンの中に、平城西公民館が開館しました。

生駒山の見える丘陵に建つ当館は、南北に縦断する近鉄京都線の高の原駅より西側の右京と神功の2地区をエリアとし、新興住宅地として開発された両地域とともに発展してきました。

私が、館長として着任した2022年は、ならやま小中学校の開校、平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年等、歴史的な節目の年で、各所でさまざまな50周年記念イベントが開催され賑わっていました。

当館においても、平城ニュータウンの開発に至る経緯や周辺地域にある集落の歴史的な変遷などを絵図や文献から学習し、実際に地図を見ながら歩く講座「地図で知る高の原～超昇寺里山と平城ニュータウン」を開催しました。この講座を通して、このまちの地理的特徴や成り立ちについて理解を深めることができ、愛着もより一層深まったのではないかと思います。今後もこの右京・神功地域をはじめとする高の原周辺地域が安心して暮らせるまちとして続いていくために、学びを通してまちづくりに一助できるよう学習の機会を増やしていきたいと考えております。

この講座以外にも、2022年は、54の主催講座を開催、延べ1,644人が受講しました。右京地域とは映画会をはじめ年3回の共催講座の実施、神功地域とは池公園での秋まつりに参加させていただくなど、地域の方々とともにつながり、ふれあえる機会をいただけることに感謝しております。

主催講座だけでなく、コーラスやヨガ、料理など、当館には25の自主活動グループがあります。また、自治会や民生委員など、15の団体が会議等で当館を利用しています。日々、みなさまが生き活きと学習される姿や、地域のために活動されている姿を見ていると、公民館が地域コミュニティの場や学習の場として地域に支えられているんだと改めて感じます。

また、本を寄贈して下さる方、季節のお花を持ってきて下さる方、素敵な写真で玄関を彩って下さる方など…公民館を訪れた人が笑顔になるようにと、陰ながら平城西公民館を支えて下さる方がこの地域にはたくさんおられます。

公民館が全国に設置され始めてから77年が経ちました。時代や社会の変化に応じて公民館のあり方も変わってきており、今、また変化のときが来ているのかもしれない。しかしながら、公民館が「人と人のつながりの場、ふれあいの場、学びの場」であるという軸の部分は変わりません。

10年後20年後も変わらず誰もが気軽に立ち寄れる、何度も来なくなる、平城西公民館がそんな居心地の良い場所であり続け、これからもたくさんの方々の笑顔に包まれますように。そして60周年、70周年と続く記念事業を、またこの地域の皆さまと公民館も一緒にお祝いできたらと願っています。



主催講座「地図で知る高の原～超昇寺里山と平城ニュータウン」

## 高の原の各種団体活動 平城東公民館

### 公民館は地域とともに

「高の原」まちびらき50周年おめでとうございませす。平城東公民館は「高の原」のまちびらき以後、平成2年に竣工され、今年で33年目を迎えます。1中学校区に1館の地区公民館の建設を目標とする奈良市の「公民館整備計画」は、この平城東公民館で完了しました。

朱雀こども園の隣にあり、公民館の駐車場が送迎用の駐車場にもなっているため、朝から園児の元気な声が響く公民館です。

公民館に入ると、左側に談話コーナー「いこい」があります。待合室として涼んだり、活動後に少しおしゃべりをしたり、ちょっとした打合せに使ったりとみなさん思い思いに過ごして下さっています。ガラス窓に囲まれた明るい空間には、地域情報の掲示や、はがき絵の作品展示、お持ちいただいた季節の花々もあり、みなさんの談笑する声が聞こえ、交流する姿が見えて、私の中では「これぞ公民館！」と感じられる大好きな場所になっています。もしかすると奈良市の公民館のロビーの中で、「素敵な居心地空間第1位」かもしれません！



公民館活動も活発で、今年度は約50の自主グループが登録し、自治会や地域の各団体も日々熱心に活動されています。今年度はコロナ禍前よりも利用人数が増

えると見込まれる活気ある公民館です。

公民館には、朱雀・左京・佐保台在住のメンバーと公民館職員が、地域活性化と未来を考えるSSS（スリーエス）プロジェクトチームがあります。各地域の頭文字をとって名付けました。地域のみなさんが、この街や住んでいる人について知ること、もっともこの街を好きになってほしいと願って活動しています。月1回の会議を続ける中で、今年度の主催講座では、「カードゲームでつながろう！まちの魅力を再発見！」を開催しました。また「学校以外の居場所が作れないかな？」という窓口での保護者の一言をきっかけに、平城東中学校区の小学生を対象に「夏休み！公民館でいっしょにすごそう」を開催しました。



この他にも、今年度は15講座50回を超える主催講座を開催する予定です。

今年は公民館のあり方が問われる年となりました。公民館はだれでも、いつでも、さまざまな学習活動をするため、自由に、気軽に利用できる社会教育施設です。

地域のみなさんに愛される「いこい」の場として、みなさんの笑顔あふれる公民館として、この地で平城東公民館も開館50周年を迎えられることを祈念しています。

## 高の原の各種団体活動 高の原文化協会

### 【高の原文化協会の歴史と今後】

#### 【誕生の経緯】

この度50周年という事で文化協会も「高の原文化協会」へと名称変更をしました。

ここでは旧名称で過去を振り返り説明させてもらいます。(松岡さん回想録より)

それは昭和56年2月の事です。右京地区自治会の班長会での話です。

新しく出発する事になるニュータウンの班長会で「新年度の役員選出」と言う会合があり、自治会長の永田喜一郎さん(この方は住宅公団奈良営業所初代所長でした)がおられ、話し合いで各種行事分担を決めて4月より自治会の活動が開始しました。

自治会の役員会があった時、永田さんは、時々「この地区に文化活動する会がないのはおかしい。何とかして文化協会が欲しい」と言うような事をおっしゃっておられました。或る日永田さんより「この地区に文化協会と言うものを作ろう」と提案され、現実的な話になりました。

しかし、永田さんは自治会の会長職にあるので「協会の会長は別の方でお願いしたい」と、協会の会長を引き受ける事はしないとされました。

文化協会の会長は元高校教師の松岡さんが適任ではないかと言うことになりました。

しかし松岡さんからは「そんな柄ではない」と言われ決まりませんでした。そうして、幾日か過ぎた或る日、連合会長をしておられた梶野さんが、当地区には、全国から文化風俗習慣の異なる方々が転居されているから、お互いの親睦を深めていかねばならないというお考えのもと、スポーツ協会を創設され、各種目のクラブを発足されました。合計で1500人程の方々が参加されました。

更に万年青年クラブや社会福祉協議会、教育懇談会なども設立されましたが、何よりも文化協会の設立が求められていました。

しかしその取りまとめを行う会長職が見つかりませんでした。

これから出発すると言う「文化協会」の会長に適し

た人材がいらないかニュータウン地区で聞き込みをしていました。ある会合で宇陀中学校(現宇陀高校)の教鞭を執っていたI先生にお会いし、私が困惑している文化協会の会長職の話をしました。

丁度その頃、高松塚古墳発見の話題が新聞を賑わせていて、その発見者である網干さんが平城ニュータウンへ転居されており、また、I先生の畝傍中学での教え子でもあるとの事でした。

彼は大学卒業後、考古学、歴史学に貢献し、日本考古学会の会長になった、と聞くから「きっといい仕事をしてくれるに違いないよ」と、おっしゃられて名刺で紹介の言葉を書いてくれました。そしてこの話を自治会会長の永田さんに話したら、永田さんは、「それはいい話だ」と言う事になり、右京の地区自治会役員全員と神功地区の役員をしておられた大橋さんや梶野さんと一緒に、網干善教さんと言う関西大学の教授のお宅に参上して、文化協会の会長職をお願いすることになりました。

網干先生のお宅にお邪魔して、「文化協会」設立の趣旨を説明し、その会長になって頂きたい旨を懇願しました。ジッと聞いておられた先生は、しばらくして、快諾して下さいました。とても嬉しくて、帰路、皆と幾度も幾度も喜びを語り合った事を思い出します。



このようにして、「平城ニュータウン文化協会」と言う大きな船が、錨を上げて大海原に輝かしく船出をしましたのが昭和58年2月28日の事です。

スタート役員は、当地区の5名の知識人にお願いし、多くの講座・同好会が提案され、代表者や世話役さんを決めて試行錯誤で運営されました。

また、会誌は平城ニュータウン地域が日本書紀にある「層富県」であることから1年後の8月に「層富(そほ・そふ)」と言う名称で発刊され、網干会長さんの発案で「層富」の字は、書家の川口勇さんの揮毫、会章の図案は、寛裕さんのデザインを梶野哲さんが図案化されました。



会誌「層富」



会章

#### 【文化協会の今後】

平城ニュータウン文化協会は文化的な活動をサポートするボランティア団体であり、発案者数人から同好会スタートができます。

発足当初に20講座・同好会ほどでしたが、平成3年には歴史教養講座「古代豪族」、古代史講座、囲碁同好会、木目込人形・押絵同好会、読書会、中国語講座、詩吟の会、地酒を味わう会、園芸の会、拓本を楽しむ会、絵画の会、ワープロ教室、俳句入門(平城山句会)、短歌を楽しむ会、フランス語講座、山歩きの会、英語講座、万葉講座、野山を歩く会、笛作りの会、野草をしらべる会、源氏物語研究、星を見る会、写真同好会、アマチュア無線の会、公園を考える会、大和路ビデオ鑑賞会、音楽を楽しむ会、フォークギター講習会、「子どもの生活」研究会など30講座・同好会と発展し会員数は3百人ほどになりました。

文化協会は個別の講師・リーダーがそれぞれの会を運営し、毎年秋に市民文化ホールを貸し切り、展示会や舞台上演会を3日間にわたり、日頃の活動の成果を

披露して、地域の方々と交流しています。

また会誌を毎年発行してPR活動に努めています。文化協会は順調に推移し、網干会長は24年ほど勤められ、上田会長が1年、松村会長が7年、日比野会長が6年、明政会長2年と継続して現在に至りました。

現在は20講座・同好会として、飛鳥学講座、短歌を楽しむ会、源氏物語を読む会、中国語同好会、俳句を楽しむ会、英語講座、硬筆習字万葉書き方教室、朗読を楽しむ会、絵画・絵手紙の会、歌声サロン、折り紙を楽しむ会、押し花とブリザーブドフラワーを楽しむ会、パッチワーク研究会、料理を楽しむ会、わくわくニット、ITを楽しむ会、電子工作同好会、ウクレレを楽しむ会、太極拳と歩き方、ゆっくり歩こう会を運営・開催しています。

文化協会は、文化活動の推進や交流の場の提供に力を入れ、地域の方々と協力し、地域の魅力や活気を一層高める存在となることが目標です。文化活動は、高齢者の健康に多大な効果があります。音楽、読書、絵画、手芸などの文化活動によって、脳トレやストレス解消になり、認知機能や記憶力を向上させることができます。また、文化活動に参加することで、同じ趣味を持つ人たちと交流することができ、孤独感を軽減し、社会的なつながりを保つことができます。さらに、自己実現する機会を得ることができ、自己評価が高まり、精神的な充実感を得ることもできます。

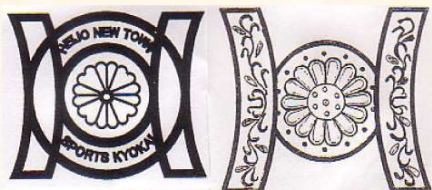
文化協会に参加することで、健康に良い文化活動を楽しむことができます。家族や友人、知人と一緒に参加することもできます。私たちは、会員の皆様の健康と地域文化の発展に力を注いでおり、今後も取り組んでまいります。皆様のご協力をお願いします。



# 高の原の各種団体活動 平城ニュータウンスポーツ協会

## 『平城ニュータウンスポーツ協会の活動目標』

- \*一人ひとりのスポーツで健康づくり
- \*みんなスポーツで多くの友達づくり
- \*コミュニティスポーツで楽しい街づくり



創立30周年記念広報紙（2009年）に元会長石森義人氏より寄せられた「協会活動30年を振り返って」の文章と現在の活動について紹介いたします。

（以下、2009年寄稿文より）

『平城ニュータウン（以下「NT」）に入居が開始されたのが昭和47年、当時は、高の原駅も仮設で、駅に行く道も泥んこ道で、その道も日替わりのように工事の都合でルートが変えられました。ショッピングも第一団地・第二団地のショッピングセンターに数店舗があるだけ、そんな地に全国各地から人々が移り住みました。

知らない土地で知らない人同士の住民たちは、友達を求めて自治会を作り自治会を核として第二団地・第一団地にソフトボール・軟式野球・少年野球・空手道などの各クラブが自然発生的につくられ、又マラソン大会・夏祭りが行われました。そんな中で各種クラブや自治会が集まり、話し合い、「交流を深め仲間づくりをしよう！」「力を合せてもっと多くの種目のクラブをつくろう！」「統一した力で施設づくり要望もしていこう！」と、スポーツ協会（以下、「協会」）を創る発想が生まれました。

協会創りの準備は稲田・梶野・小林・宮川・奥・松本・山岡・畠山（右京小教諭）等の各氏を中心になり行われました。昭和53年7月16日第二団地集会所会議室で結成総会が開かれ、初代会長に稲田武一氏が選出され協会がスタートしました。

協会は、

- ①新クラブづくりと育成
  - ②住宅公団、奈良市等へのスポーツ施設関係要望
  - ③街づくりへの自治会との共同行動
- を主な目標として発足し活動しました。

クラブづくりは協会結成後急速に進み、卓球・バレーボール・剣道・柔道・薙刀・テニス・水泳・バドミントンと矢継ぎ早に結成されました。施設づくりについては、協会結成後直ちに住宅公団及び奈良市に対し、野球の出来るグラウンドとテニスコートを朱雀第二公園に造るよう要求し、翌年開設されました。併せて平城NTに体育館を建設するよう要求し、自治会と一緒に強力的交渉をし、3年から10年かけて実現しました。

昭和58年には、左京1号公園にグラウンド・テニスコートを建設するよう要求、住宅公団は難色を示し熾烈な交渉となりましたが、結果的には61年6月に出来上がりました。

ならやま会館の完成は昭和61年、早くも63年秋には1万2千余名の住民署名を集めて当時の西田市長に第二体育館（神功）建設を要求しました。奈良市はコミュニティ体育館が市全体で2館しかない。第一体育館が朱雀、三号館が神功では平城NTに偏ると大変渋りましたが、結局住民の署名の功あって平成7年に完成しました。

街づくり行事は自治会と共同でマラソン大会、ソフトボール大会、夏祭り等全住民対象の行事を行い現在に引き継がれています。



昔の様子

文部科学省を先頭に「地域総合型スポーツクラブ」創りを提唱し奈良市でもわが協会が指導的役割を果たして20近い地域クラブができています。わが協会発足当時は地域で横に繋がったスポーツの協会組織は三鷹市、神戸市垂水区に在ると聞き三鷹には電話で、垂水には視察交流に向き形態・活動状況を調査しました。

その結果は、三鷹は室内競技クラブだけの組織、垂水はグラウンド等の確保のための屋外クラブ組織で、わが協会のように全ての組織を網羅したものではありませんでした。

そういう点では当協会は、地域総合型スポーツクラブの日本の元祖でもあります。当協会を創設された稲田氏をはじめ先人たちの偉大な先見性に深い感銘を覚えます。

稲田初代会長は、あらゆる機会に『スポーツにはルールがある。スポーツを通じてルールを守る人創りをし、平城NTをルールを守るまちにする。』と言われました。

私は「爺さんその話はもう百回以上聞いたよ。」と冗談を言ったくらいでした。稲田会長が総会、大会の挨拶の中で言われた言葉を平成元年に協会の活動目標として定式化したのが次の標語です。

- \*一人ひとりのスポーツで健康づくり
- \*みんなスポーツで多くの友達づくり
- \*コミュニティスポーツで楽しい街づくり

当協会の活動が認められ平成元年6月に奈良県知事から「コミュニティスポーツ推進優良団体」表彰を戴き、続いて平成2年10月には「社会体育普及振興優良団体」として文部大臣賞を戴き記念祝賀会をして、「五葉の松」記念植樹としてならやまコミュニティ会館前に植えました。元年及び2年の表彰される年には、マスコミ重視の活動を精力的にした結果、二年間で当協会関係の記事が新聞雑誌合わせて70数回掲載されました。

風変わりなイベントとしては、昭和57年に協会「カーニバル」を実施。第二団地ショッピングセンター広場に各クラブが夜店を出し、舞台では各クラブ一芸の出し物で楽器演奏・歌謡・コーラス・舞踊・パレー

ボールクラブのフラダンスのときは大爆笑。

フィナーレはフォークダンス・社交ダンスと楽しみました。「スポーツ協会」昔話になりましたが、お許しください。スポーツ協会の緊急課題は、団塊の世代の代を迎え平城NTも高齢化が進み60歳以上が30%に迫ろうとしています。高齢者向けのスポーツの普及こそ地域協会の使命だと思えます。』



現在の協会の状況は、ニュータウン住民を主体に25種目、45のクラブが協会に加盟し活動しています。会員数は1241名を数え、各所属クラブは、ニュータウン内のスポーツ施設を利用して、日常的に活動を行うとともに、協会加盟クラブ員や自治会の皆さんの協力により、全住民を対象とした各種のスポーツ教室、講習会やスポーツ大会を引き続き開催しております。4自治連合会、26自治会、45スポーツクラブと地域内全学校（1高等学校、1中学校、1小中学校、2小学校）の協力を得る全国的にも稀有な三位一体の組織となっております。

「ならやまコミュニティスポーツ会館」と「高の原コミュニティスポーツ会館」については、奈良市の指定管理者制度により当協会が引き続き管理委託を受け、利用率ほぼ100%を維持しながら、協会クラブ員や住民の利用増進を図っております。

2023年現在 少子高齢化による人口減少、協会を取りまく環境は更に厳しい状態が続いていますが住民のスポーツ環境の維持発展に寄与し、これからの50年の歴史を紡ぐために『スポーツの力』を発揮し、地域を盛上げたいと思います。

## 「支えあう 住みよい社会 地域から」

### 民生委員制度の歩み

民生委員制度の源とされているのが、大正6年、岡山県で創設された済世顧問制度です。

この済世顧問制度の設置規程公布日が5月12日であったことからこの日が「民生委員・児童委員の日」となりました。済世顧問制度の特徴としては、①地域の優れた人材に顧問を委嘱する、②防貧活動を使命とする、③自立能力を潜在させている人びとがその力を発揮できる機会を提供し自立を支援する、などがあげられる。

その翌年、大正7年に誕生したのが大阪府の方面委員制度で、広く全国に普及していくことになります。方面委員の「方面」とは、「地域」を表し、各委員は、①それぞれが一定の区域を担当する、②区域の訪問調査により世帯状況を常に把握する、③生活困窮等で支援が必要な人は迅速に救済機関につなげる、といった役割を担っており、それは今日の民生委員に共通しています。昭和3年に方面委員制度は全国に普及し、全国の委員数は1万5,155人を数えました。

昭和4年、新たな公的救済制度を定める「救護法」が成立。しかし、財政上の問題から実施時期は未定という状況が続きました。昭和6年4月、方面委員の全国組織として全日本方面委員連盟（全国民生委員児童委員連合会の前身）が誕生しました。昭和6年2月全国の委員代表が連署した「救護法実施請願ノ表」を上奏する。その思いが実り、昭和7年1月より救護法は実施されました。その補助機関として救護委員が置かれ方面委員が兼ねることになった。このような中、方面委員制度を全国統一の制度にしていくことが求められ法的基盤が必要となり、昭和11年11月、方面委員令が公布される。地域ごとの実情にも配慮しつつ法的な基盤が整えられました。

昭和12年、日中戦争が始まり、戦争に突入り戦時体制が進む中、国民は厳しい耐乏生活を余儀なくされ、生活の刷新合理化運動が推し進められました。方面活動もこうした動きに組み込まれ一翼を担うこととなりました。そうした中でも出征軍人の家族への支援な

ど、住民に寄り添った活動を続けました。昭和20年8月終戦を迎え、昭和21年9月、民生委員令が制定され、方面委員は民生委員と改められました。

「民生」とは、「国民の生活、生計」という意味です。児童や母子、高齢者の福祉をはじめ、広く国民生活全般の相談に応じる役割を表す名称とされました。委嘱者も知事から厚生大臣（当時）に改められました。昭和22年、児童福祉法が制定。この法において児童委員が創設され、民生委員が兼任することとなりました。昭和23年7月、民生委員法が公布されました。法制定に伴い、市町村民生委員推薦会、都道府県の審査会、委員の資格要件、任期を三年とすることなど明確にされました。

昭和20年代末以後の活動において特筆されるものとして「世帯更生運動」と「心配ごと相談事業」があげられます。昭和30年には、低所得世帯の自立を支援する「世帯更生資金貸付制度」も創設され、これが現在の「生活福祉資金貸付制度」です。昭和42年「活動強化要綱」を定め、地域社会の実情把握するため「全国モニター調査」を行いました。初の調査は昭和43年「居宅ねたきり老人の実態調査」を実施。調査結果は、社会に大きな驚きを与え、以後の在宅福祉充実に大きな役割を果たした。以降も父子家庭、独居高齢者、孤独死等、多様なテーマで実施されました。

平成6年1月、主任児童委員制度が誕生。平成12年6月、民生委員法が改正し、民生委員の性格が「住民の立場に立った相談、援助者」と改められました。地域福祉の担い手として「住民の福祉の増進を図るための活動を行う」こと等が明示され現在に至っています。誰もが笑顔で、安全に、安心して暮らせる社会づくりのため、民生委員活動は今日も続いています。

**民生児童委員は あなたのまちの良き相談相手**



## 各地区での活動状況紹介

### 1. 奈良市 佐保台地区 委員数 7名

当地区での活動内容としては、①一人暮らし高齢者対象にご自宅への見守り訪問、相談事の聞き取りなど。また、春と秋に食事会などのイベントを開催。②主任児童委員は、0歳～未就園児とその保護者対象に活動。子育てスポット「どんぐり広場」の運営。③その他の活動として、委員同士の情報交換、情報共有の為に定例会の実施。小学生の登下校見守り。地区団体と協力し「くらしのなんでも相談室」の開催。困り事のある高齢者とその家族へ相談窓口の紹介の実施。地域福祉活動、行事への参加を行っています。

### 2. 奈良市 左京地区 委員数 10名

当地区では、地域の諸団体と連携し安心安全な街づくりを目指し活動しています。主な活動内容は①地域の方々のお困りごと等の相談活動②一人暮らしの高齢者や障害をお持ちの方等への定期的な訪問見守り活動③地域連携による見守り活動④地域の各種行事、会合への参加、協力等⑤県や市が主催する行事への参加⑥くらしのなんでも相談室事業への協力他。

今後も、大人にとっては安心して生活でき、また子供にとっては安心して成長できる地域を目指し活動して参りたいと思います。

### 3. 奈良市 朱雀地区 委員数 12名

朱雀当地区は、各町内の民生委員は欠員なく配置し、主任児童委員も2人の体制で日常の見守り相談活動を遂行しています。ニュータウンのくらしのなんでも相談室にも参加して、地域の皆さんの声を聞いています。また朱雀地区の夏祭りやキッチンカーフェスタにも民児協として参加し、PR活動、ポン菓子無料配布、福祉紹介など地域の環境に合わせた活動を展開しています。また、まちづくり協議会のメンバーとして、地区社協、地区万青連合と、地域福祉の未来想定図を検討、研修を行っています。



### 4. 奈良市 右京地区 委員数 13名

当地区では、①緊急時に備え、家族構成、緊急連絡先等を記入する「ふれあいカード」の提出依頼活動を行っています。（任意）②子育て広場ぶらんぶらんで実施されるフードパントリーへの協力やくらしのなんでも相談室事業への参加③高齢者や要支援者宅への訪問や相談④生活福祉資金に関する相談⑤地域団体や学校への協力などを行っています。

### 5. 奈良市 神功地区 委員数 10名

当地区では、住みやすい街づくりをテーマに、①高齢者のお一人暮らしの方への訪問を行い、関係団体発行のたよりや警察の機関紙などを配布し、相談や注意喚起などを促しています。②避難行動要支援者の方へは、平治時の訪問、支援活動を行っています。③地区の関係団体との情報共有と相互で開催する行事などに参加協力を行っています。また、地区の一部で回覧をスマホ等で見られる電子化を実施し、民児協情報を提供しています。

### 6. 木津川市 木津西部地区（相楽台・兜台） 委員数 16名

当地区は、平成23年4月、旧木津町民生児童委員協議会が木津東部と木津西部に分かれることにより発足しました。主な活動は①高齢者の日々の見守りと訪問。②子ども達の登下校の見守りです。ニュータウンでは、ご近所のつながりのないことを不安に思っておられる方も多いと思います。少しでも安心して暮らしていただけるように寄り添った活動を目指して行動しています。

### 7. 精華町 桜が丘地区 委員数 6名

当地区では、日々の活動として①一人暮らしの高齢者や生活にお困りの方などのご自宅を訪問し、安否確認や生活上の困りごとの相談に乗ったり、必要に応じて役場などの関係機関へのつなぎ役も担っています。②主任児童委員は子育て家庭の相談に応じたり、小中学校との連絡調整などを行っています。③定例会は毎月1回開催し、その後小学校区毎に別れて部会を行い情報交換などを行っています。④あんしん相談では、民生児童委員が2人一組になって、毎月1回、生活相談を行っています。



# 平城・相楽ニュータウン まちびらき50周年記念事業

地域の自治連合会および自治会、行政、事業者が一体となり、平城・相楽ニュータウンまちびらきから50周年目にあたる2022年11月25日を中心に、各種記念事業をまち全体で地域の皆さまとともに開催しました。

## ●平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念式典

開催日：2022年11月26日（土） 10時～10時30分  
会場：奈良市北部会館 来賓の出席者数 63名

- ◆開会の辞：奈良県立奈良高等学校 放送部
- ◆主催者挨拶：平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念事業実行委員会 作間委員長
- ◆来賓祝辞：
  - ・奈良市長 仲川 げん様
  - ・木津川市長 河井 規子様
  - ・精華町長 杉浦 正省様
  - ・近畿日本鉄道株式会社 代表取締役社長 都司 尚様
- ◆来賓紹介・祝電披露
- ◆愛称発表：平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念事業実行委員会 愛称部会 笹部 部会長
- ◆閉式の辞：平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念事業実行委員会 田中副委員長



仲川奈良市長



河井木津川市長



杉浦精華町長

## ～まちの愛称は「高の原」となりました～

まちの愛称は、対象地域の住民の皆様、児童・生徒の皆様にまちの愛称募集を呼びかけた結果1,000を超える応募をいただきました。この街への強い愛着や将来への期待が読み取れました。応募いただいた愛称の4割以上が何らかの形で高の原を使っておられ高の原という名称が広く浸透していることが分かりました。また万葉集に由来する歴史的意味合いや未来への期待、それらを全て包み込むのが高の原ではないかと考えています。これからは、地域の各種団体名や事業・行事の名前にも使用されることを期待しております。



愛称発表セレモニー



## ●50周年記念イベント オープニングセレモニー

開催日：2022年11月26日（土） 10時45分～11時30分  
会場：近鉄高の原駅 駅前ロータリー 大階段付近

- ◆開会の辞：奈良県立奈良高等学校 放送部
- ◆オープニング挨拶：
  - ・平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念事業実行委員会 作間委員長
  - ・奈良市長 仲川 げん様
  - ・木津川市長 河井 規子様
  - ・精華町長 杉浦 正省様
- ◆愛称披露：平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念事業実行委員会 愛称部会
- ◆演奏：京都府立南陽高校 吹奏楽部



作間実行委員長



愛称披露



京都府立南陽高校 吹奏楽部

## ●平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年記念イベント

開催日：2022年11月26日（土）・27日（日） 10時00分～16時00分  
会場：近鉄高の原駅前広場一帯およびサントウンプラザすずらん館前広場

- ◆来場者数：2022年11月26日（土）約15,000人、 2022年11月27日（日）約20,000人
- ◆出展者数：54団体
- ◆出演者数：10団体



記念イベントパンフレット ©900.jp



地元住民合同合唱隊



奈良市役所 チーム八重櫻



奈良大学 津軽三味線部



屋外パフォーマンスゾーンの様子



## ●50周年記念・冠イベント

平城・相楽ニュータウンまちびらきから50周年目にあたる2022年11月25日を中心に開催された「まちびらき50周年」の冠をつけて一緒にお祝いしていただいたイベントです

## 記念ウォーク

2022年9月10日、ニュータウンの東と西の2コースに分かれ、沢山の住民参加により実施。安全に歩ける歩行者専用道路と大きな公園が広がるこのニュータウンの良さをあらためて知り、健康増進にも繋げるイベントとなりました。当日は、楽しい吹奏楽コンサートや地域の方の飲食イベント等でさらに盛り上がりました。



## 黒板アート+ (プラス)

2022年11月5・6日、12・13日の4日間、旧神功小学校の教室黒板に描いたアート作品を中心に、工夫を凝らした芸術作品を展示しました。この小学校の卒業生、ニュータウン内外の児童・生徒・学生など幅広く参加し、同時開催のワークショップや音楽ライブで盛り上がりました。

## まちの愛称募集

2022年7月～9月に一般公募し、たくさんの住民から応募がありました。今回決まったのは、このまちの愛称、奈良市側の歩行者専用道路と公園の愛称。住民が呼びやすい愛称を決めることで、今までより一層このまちに愛着を持っていただくことを目的として実施しました。



## 愛校祭

2023年3月25・26日『右京小学校、神功小学校、平城西中学校にありがとうをこめて』をキャッチフレーズに、約半世紀の歴史に幕を閉じた3つの「学び舎」に感謝を伝えようと、地域住民、卒業生、学生ボランティアが一致団結！元平城西中教師による最後の授業や、元平城西中校長による、3校に対する卒業証書の授与式、音楽ライブやマジックショー、大学生が企画する謎解きウォークなど様々なイベントが行われました。

## 記念碑除幕式

2023年3月19日、愛称募集事業の公募でまちの愛称に決まった「高の原」を記した記念碑の除幕式を近鉄高の原駅前の広場で行いました。関係者約30人が参加し、記念碑の完成をお祝いしました。



このたびは、本事業の趣旨にご賛同いただき、ご協賛・ご協力いただき、誠にありがとうございました。  
今後とも、高の原のさらなる発展にご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

## ●ご協賛・ご協力いただいた皆さま ※敬称略、順不同

独立行政法人都市再生機構／大和ハウス工業株式会社／積水ハウス株式会社  
関西文化学術研究都市センター株式会社／イオンリテール株式会社イオンモール高の原  
近畿日本鉄道株式会社／近鉄不動産株式会社／奈良交通株式会社／学校法人奈良大学  
医療法人新生会総合病院高の原中央病院／福寿園CHA遊学パーク／奈良市／木津川市／精華町  
学校法人青丹学園関西学研医療福祉学院／平城京ロータリークラブ／京都山城ロータリークラブ  
JICCHI BURGER／パパ・ド・ウルス丘の上食堂／高の原駅前団地わくわくカフェ運営サークル  
高の原ばーるKaeru Kouen／炭火焼き鶏 朱雀／テバス高の原店／株式会社とみや／パンブロー朱雀店  
TE=CHA／r& (アール・アンド)／紅鷄冠総本店／くじびき屋／TABI Coffee Roaster／あーちゃんち  
株式会社 Smile Labo／TOLT旅と暮らしのスポーツ自転車／野風工房／足もみ屋 風  
株式会社NeoFact(Nirvanaおうちレストラン)／MaReKa Rond(マレカ ロン)／スマイルスター  
couleur／Boulangerie Riche(ブーランジェリー リッシュ)／Crepe du Soleil／ツバクロすっぽん食堂  
株式会社明日香園芸・フラワーショップあすか風／Tiffany coffee & flower／フラワーショップメープル  
株式会社アグロス・カワモト「愛裁家族」／グリーンハ〜モニ〜／ロイヤルホームセンター株式会社  
スターフラワー／コバンスポーツクラブ高の原／奈良クラブ／ならやま研究パーク推進協議会  
公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構／株式会社国際電気通信基礎技術研究所  
奈良市北部地域包括支援センター・木津川市地域包括支援センター木津西・精華町南部地域包括支援センター  
公立大学法人奈良県立大学アイドルダンスサークル／奈良県立奈良高等学校／京都府立南陽高等学校  
木津川市立木津第二中学校／津軽三味線うたしの会／なら楽鼓の会／奈良市役所チーム八重櫻

## 【編集後記】

まちびらき50周年の節目の年を迎え、ここに記念誌を発刊できますことを心よりうれしく思います。本記念誌は、まちびらきから現在までの各地区・地域の自治会や、各団体の様々な活動の記録を残すことを目的として編集いたしました。編集作業を通じて、多くの方が、高の原に誇りをもち、より住みよいまちにしようとして活動されているのだと改めて感じました。また、本記念誌をきっかけに、一人でも活動に興味を持って下さる方がいらっしやればとてもありがたいです。最後になりましたが、本記念誌の編集にあたり、お忙しい中原稿をお寄せいただきましたみなさま、記念誌作成にご尽力いただいた編集部のみなさまに心から感謝申し上げます。

## Special Thanks ※敬称略

表紙「高の原」：書家 佐竹 有沙子  
50周年「ロゴ」：クオーレーコラーポレーション 立石 雅信  
冊子デザイン：大城戸 建雄  
写真提供：山本 公弘・高尾 克彦・平城第2団地自治会

## 記念誌編集部

部会長：笹部 和男(神功地区自治連合会長)  
：中嶋 一樹(右京地区自治連合会長)  
：作間 泉(朱雀地区自治連合会長)  
：田中 明(左京地区自治連合会長)  
：中川 崇(左京地区社会福祉協議会長)  
：牧井 俊明(相楽台地域自治会連合会元(2021年度)会長)  
：甲斐 佳夫(相楽台地域自治会連合会前(2022年度)会長)  
：田中 良典(木津川市社会福祉協議会 兜台区支部長)  
：日比野 豊(高の原文化協会前会長)  
：小西 桂子(平城ニュータウンスポーツ協会会長)  
アドバイザー：瀬渡 比呂志  
事務局：関西文化学術研究都市センター株式会社